

令和7年度

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

本市児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和7年4月17日（木）
- (2) 調査対象 小学校第6学年 中学校第3学年
- (3) 調査内容
 - 国語 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 - 算数・数学 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 - 理科(中学校 CBT) 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 - 質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

2 教科別結果概要

（令和7年度と悉皆調査実施年度との比較）

（1）全国・千葉県・指定都市の平均正答率（％）と千葉市全体の結果（ここでの全国は公立のみを示す）

【資料1】問題別平均正答率一覧（％）[全国・千葉県・指定都市・千葉市]＜令和4年度～令和7年度＞

		全国 平均正答率※2	千葉県 平均正答率※1	指定都市 平均正答率※2	千葉市 平均正答率	全国との 比較
	令和7年度	67	66	67	66	-1
小学校	国語	68	67	68	68	0
	令和6年度	67	67	68	68	1
	令和5年度	66	66	66	67	1
	令和4年度	58	58	58	59	1
	算数	63	63	64	65	2
	令和6年度	63	62	63	63	0
	令和5年度	63	63	64	64	1
	令和4年度	57	57	57	57	0
	理科	63	63	64	65	2
	令和4年度	60	61	61	62	2
	平成30年度					

		全国 平均正答率※2	千葉県 平均正答率※1	指定都市 平均正答率※2	千葉市 平均正答率	全国との 比較
	令和7年度	54	54	55	55	1
中学校	国語	58	57	59	58	0
	令和6年度	70	69	70	71	1
	令和5年度	69	68	66	69	0
	令和4年度	48	47	49	49	1
	数学	53	51	53	52	-1
	令和6年度	51	51	52	53	2
	令和5年度	51	50	52	52	1
	令和4年度	503※3	496※3	508※3	507※3	4
	理科	49	48	50	50	1
	平成30年度	66	65	67	67	1

※1 千葉県平均正答率は、千葉市を含んだ千葉県の正答率の数値

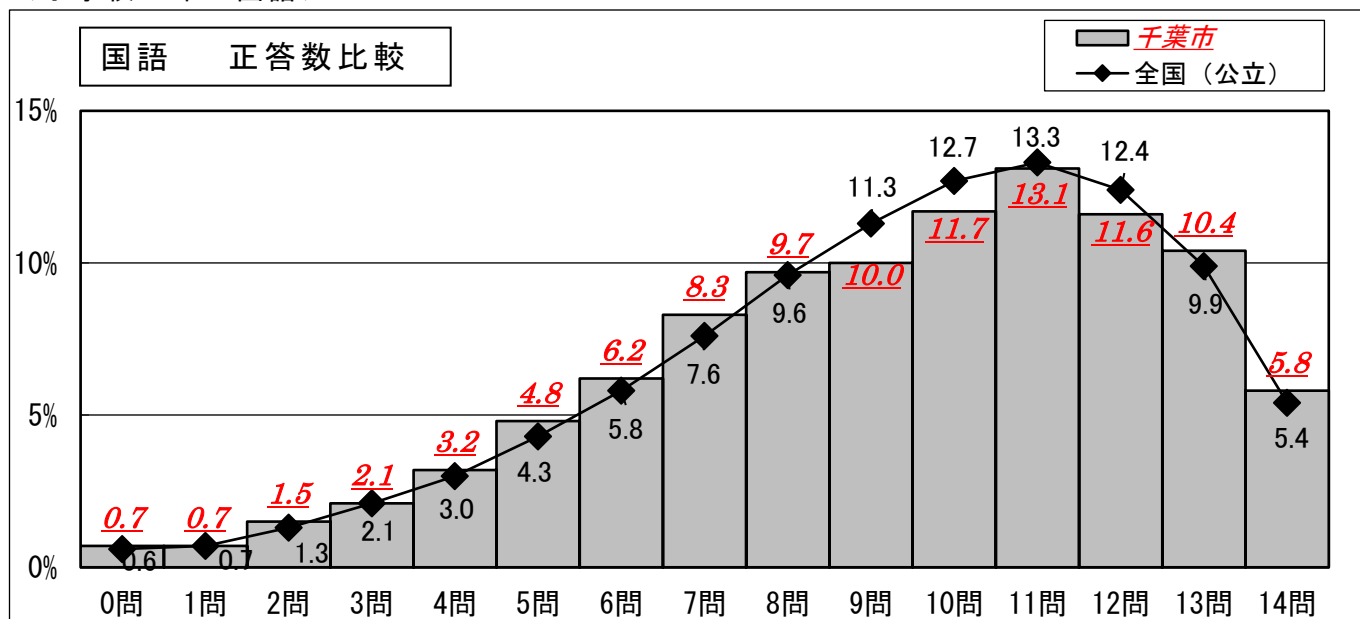
※2 全国及び指定都市の平均正答率は、公立のみの正答率の数値

※3 令和7年度より中学校理科はIRTに基づいて算出される学力スコアの数値

IRT(Item Response Theory): 項目反応理論。問題の特性(難易度や識別力等)と各児童生徒の学力を分けて考える枠組みであり、いくつかの手続を経ることで、異なる時点、問題セット、児童生徒集団等で実施した場合であっても、その結果を相互に比較できるようになる。

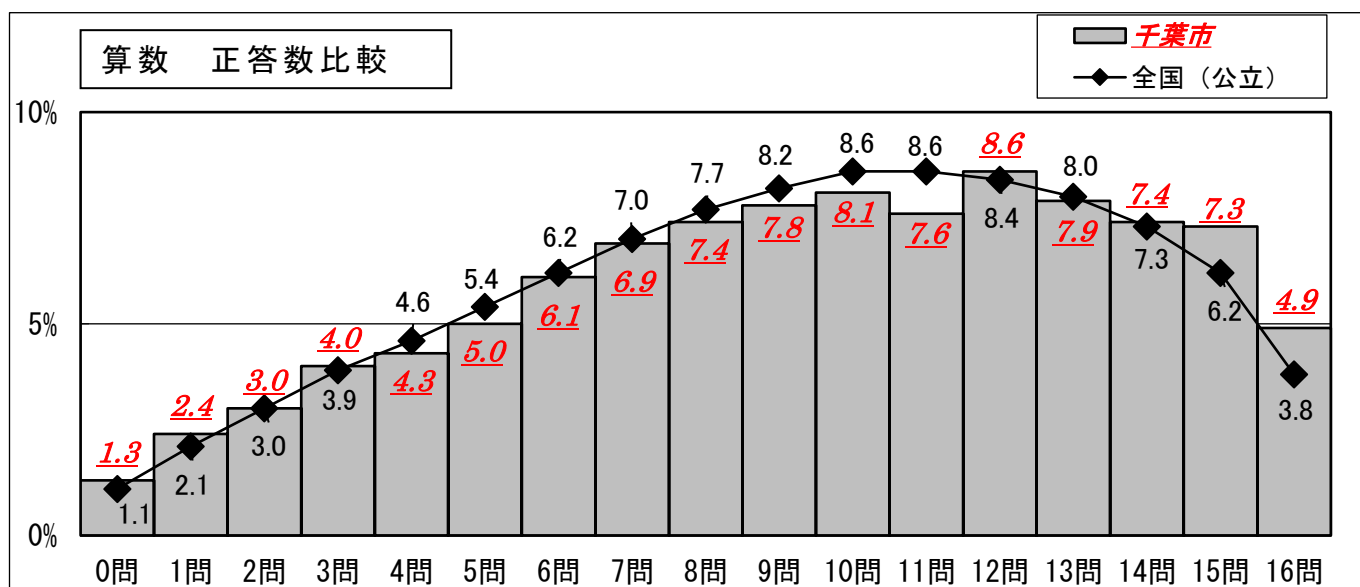
(2) 正答数の分布 (全国との比較)

【資料2】正答数分布 (横軸：正答数、縦軸：人数の割合) [全国・千葉市] <令和7年度>
<小学校6年生国語>



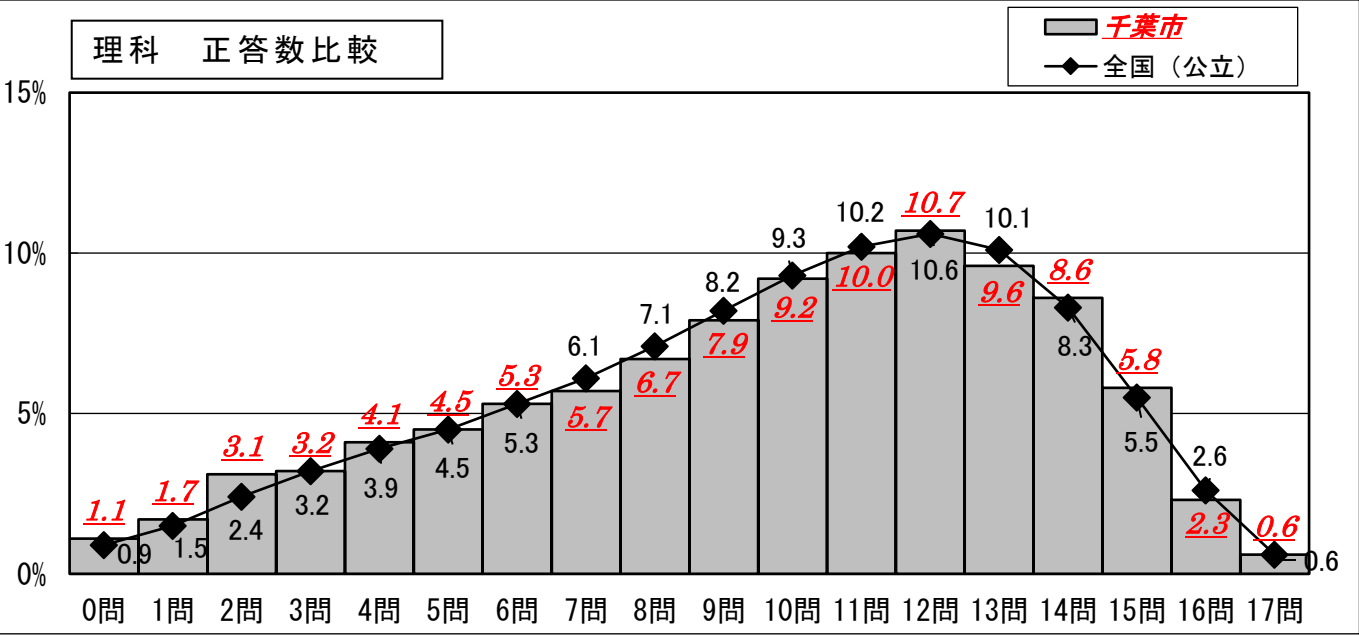
	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.3 問 / 14 問	10.0	3.1
全国 (公立)	9.4 問 / 14 問	10.0	3.0

<小学校6年生算数>



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	9.4 問 / 16 問	10.0	4.2
全国 (公立)	9.3 問 / 16 問	10.0	4.0

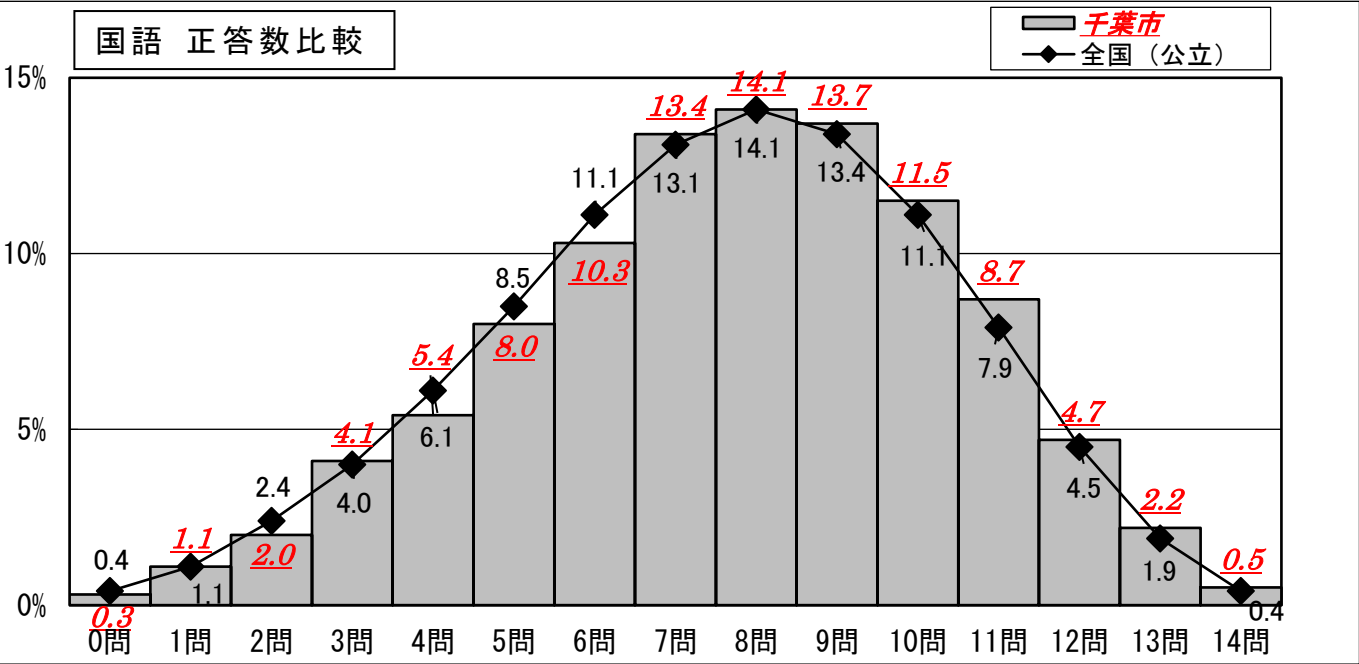
< 小学校 6 年生 理科 >



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉県	9.6 問／17 問	10.0	3.9
全国（公立）	9.7 問／17 問	10.0	3.8

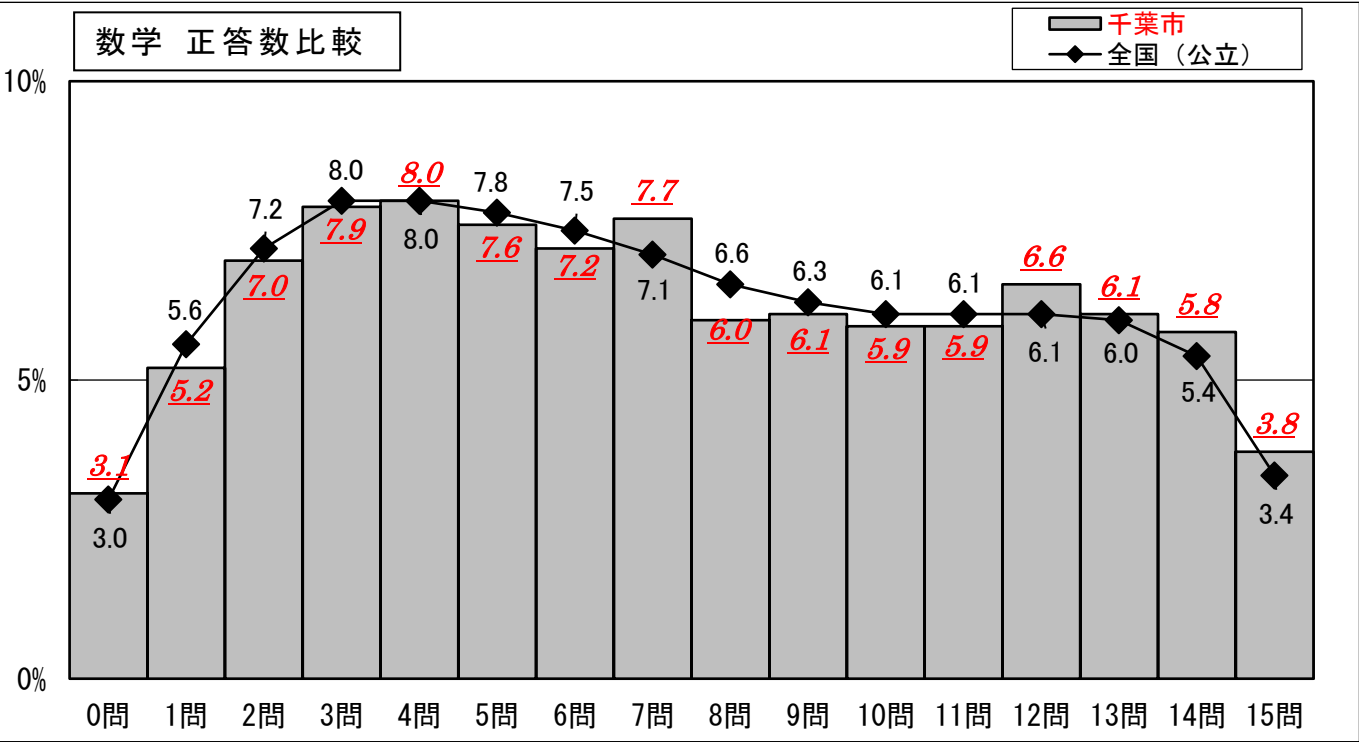
- ・ 国語では、平均正答数が全国より 0.1 問低い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっている。正答数が 4 ～ 8 問の層は全国と比較して割合が高く、9 ～ 12 問の層の割合は低くなっている。
- ・ 算数では、平均正答数は全国より 0.1 問高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっている。
- ・ 理科では、平均正答数は全国より 0.1 問低い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフとなっており、正答数が 0 ～ 6 問の割合は全国と比べて多く、7 ～ 11 問の層は低くなっている。

< 中学校 3 年生国語 >

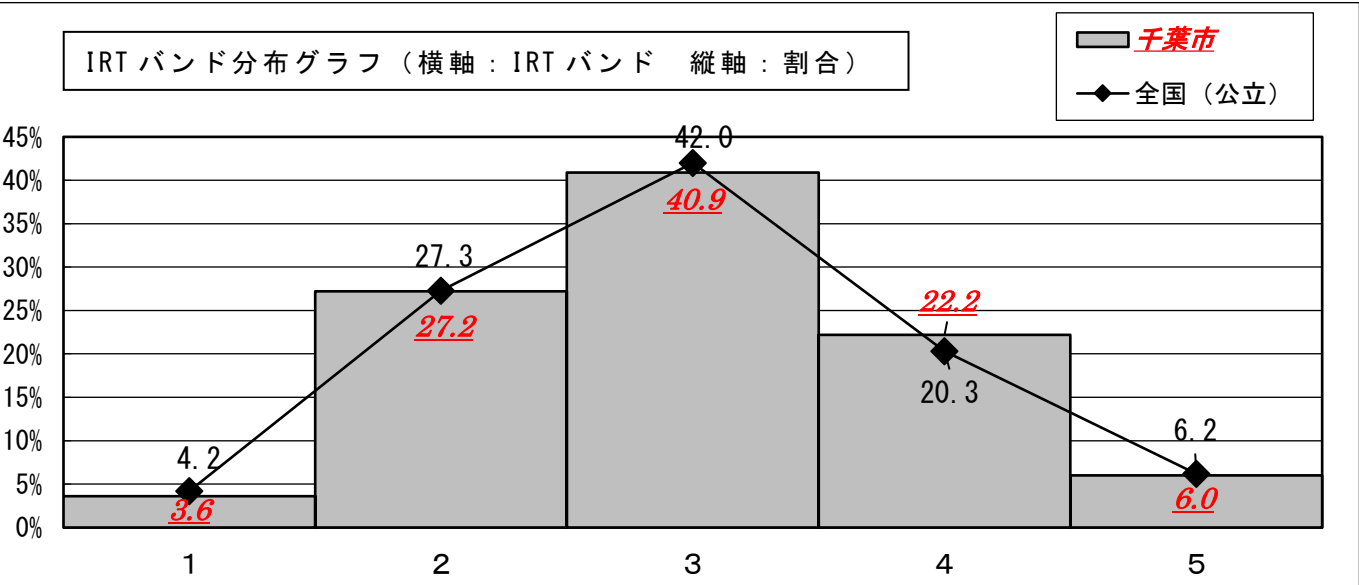


	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	7.7 問 / 14 問	8.0	2.7
全国 (公立)	7.6 問 / 14 問	8.0	2.7

< 中学校 3 年生数学 >



	平均正答数	中央値	標準偏差
千葉市	7.3 問 / 15 問	7.0	4.3
全国 (公立)	7.2 問 / 15 問	7.0	4.2



IRT バンド集計値

IRT バンド	生徒数	割合 (%)	
	千葉県	千葉県	全国 (公立)
5	388	6.0	6.2
4	1,443	22.2	20.3
3	2,652	40.9	42.0
2	1,767	27.2	27.3
1	236	3.6	4.2

- ・国語では、平均正答数が全国より 0.1 問高い。正答数の分布は、全国と同様に 7 ～ 9 問の正答数の多い生徒の割合が高い、中央寄りの山型のグラフになっている。正答数が 9 問以上の上位層の割合が全国よりも高くなっている。
- ・数学では、平均正答数が全国より 0.1 問高い。正答数の分布は、全国と同様正答数の少ない割合が高い、左寄りの山型となっている。
- ・理科では、1・2・3・5 の IRT バンドの割合が全国より低く、4 が高い。全国と同様山型の分布となっている。

全国学力・学習状況調査におけるIRTスコア・IRTバンドについて

IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500を基準にした得点**で表すものです。

〔 各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。〕

IRTバンド

IRTスコアを**1～5の5段階**に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

〔 各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。〕

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

※IRTバンドをIRTスコアに換算すると、およそ以下のような対応関係になります。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～

【参考】国立教育政策研究所 説明資料より

(3) 全国平均との平均正答率の差において、向上が見られた学校の取組み事例

＜令和6年度と7年度との比較＞

令和6年度の全国と各学校の平均正答率の差と令和7年度の全国と各学校の平均正答率の差を比較

※出題される問題が毎年異なり、調査母体の児童生徒も異なっているが、変化のある学校の傾向を把握するため、経年比較を行う。

【資料5】全国平均との平均正答率の差において、向上が見られた学校の取組み事例

顕著な向上が見られた学校からは、以下のような取組みが報告されている。

ア 小学校

学校名	取組の内容
生浜	1 基礎学力の向上と学力差対策への取組 ・チャレンジタイム（朝学習） ドリルパークや教科書の復習ページ、プリント（百マス計算）等を活用し、基礎的な計算力の向上と、<u>授業と関連した内容についての復習を計画的</u>に行った。 ・チャレンジテスト 月1回のチャレンジテストにおいて、既習の学習内容について定期的に振り返ることで、基礎・基本を確実に身に付けられるようにした。また、事前にテストの内容を示し、<u>計画的に課題に取り組む態度の育成</u>を図った。 ・<u>学校支援員や理数サポーターの活用</u> 学校支援員や理数教育サポーターを学級に計画的に配属し、学習の支援が必要な児童への対応を行った。 2 安全・安心して過ごせる学校・学級 ・<u>学習に向かうための環境</u> 「生浜スタンダード（生活編）」等を基に、学校生活での決まりやルール等を保護者や児童に周知し、落ち着いた雰囲気と、規律のある学習環境のもとで生活することができた。集中して学習に向かう環境を整えることができた。
桜木	・朝学習や家庭学習で視写、語彙集め、学習カードの振り返りなど、学年や部会でねらいをもった「書く」学習に取り組ませることで、<u>「書く」ことに対する自信をもてるように</u>する。 ・学年で教材研究を丁寧に行い、共通理解を図る。年間指導計画を各学年で確認し、単元の中で<u>書く目的や相手を明確にして学習</u>に取り組ませる。 ・朝、週3回の「朝学習」の時間を設ける。学年で重点目標を決めて漢字の書き取りをしたり、ドリルの問題を解いたりして学習内容の定着を図る。 ・学年の児童の実態に合わせて、<u>一人ひとりを生かす指導方法</u>や、学年での効果的な指導形態の工夫を行う。
幕張西	・昨年度より「主体的に学び、対話から考えを深める子供の育成」を研究主題とし、国語科の研究に取り組んでいる。<u>「主体的に取り組むための課題設定の工夫」や「思いや考えをもち、深めるための手立ての工夫」</u>を目指している。それらの工夫をすることで、自他との感じ方や考え方を比較して自分の考えを広げたり、深めたりしたことで対話の楽しさを味わうことができた児童も見られ、学力の向上につながっていると考えられる。 ・漢字については、ミニテストを定期的に繰り返し行うことで力を伸ばしてきていると考える。また、ICTの有効活用にも力を入れて日々の学習を行ったことで、子供たちの学習への意欲も高まったと思われる。
朝日ヶ丘	・学習の中で、ペアや小グループでの話し合い活動を計画的に行い、<u>自分の考えを友達に伝え合う機会</u>を多く取り入れた。友達の考えや意見を尊重し、互

	いを認め合い、大切にすることが身に付いていることが向上につながっていると考えている。 ・「あたたかい心で たくましく生きる子 ～あったかさんの学校～」を学校教育目標とし、学級・学年の人間関係が良好で、<u>規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣</u>が身に付いており、日々の学習に落ち着いて取り組むことができる。毎時間の授業を確実にやり、基礎・基本の定着を図った。
--	--

イ 中学校

学校名	取組の内容
生浜	1 学力向上に向けての取組 ・授業の導入で、前時の復習の時間を設け、つながりをもった授業展開を行う。 ・单元ごとに小テストや振り返りを行い、生徒の理解度を把握し、<u>個別支援</u>に役立てる。 ・各教科の課題学習の解決や調べ学習、Web 動画の視聴など、I C T機器を効果的に活用し、生徒の学びの幅を広げる。 ・ギガタブを活用した单元ごとの振り返りを行い、<u>生徒自身が学びの到達度を捉え</u>やすくする。また、教師が見ることで生徒の理解度を把握し、授業の工夫・改善を図る。 ・具体的な作業や操作活動から学習につながるような授業展開の工夫を行う。 2 学力格差、二極化への取組 ・グループ編成を工夫しながら、<u>教え合いや意見を交換する授業</u>を計画的に取り入れる。その際に、I C T機器を有効に活用していく。 ・夏季休業中や定期テスト前に学習相談の時間を設け、<u>個別に支援</u>が必要な生徒へアプローチできる機会を作る。 ・週に1回の予定で、学習の基本的内容の振り返りができる小テストを実施し、<u>家庭学習等の学びのきっかけ</u>を作る。（1～3週目：各教科、4週目：3週目までの総まとめ）
幕張西	・「学力向上アクションプラン」を次年度検討や新年度の会議の中で資料として提示し、教職員の中で、生徒の<u>実態の共通認識</u>を図った。 ・各教科、単元の目標を明確にし、学習意欲の向上を図った。 ・夏季休業の学習相談を廃止する代わりに、学習相談の機会を定期的に設けた。放課後の時間に、学習事項の理解を深める時間を設定し、学習事項の定着を図った。 【国語科】 漢字や文法、古文における知識の定着を図るため、演習や小テストを継続して取り組んだ。また、<u>話し合い活動や発表、教え合いの場面</u>を授業内で設定し、能動的に生徒が学習に取り組めるようにした。 【数学科】 ノートやワークシートに<u>自分の考えを記述</u>できるように指導した。また、スモールティーチャーや小集団を活用し、<u>自分の考えをアウトプット</u>できるような機会を多く設けた。
みつわ台	・全教科「本日の授業の流れ」を板書することで、生徒に<u>見通し</u>をもたせやすくなった。 ・スモールステップを意識した授業を展開していくことで「<u>できた</u>」を<u>実感</u>させやすくなった。 ・数学では「2分前着席」を「2分前学習」に変更し、毎時間、計算問題に取り組ませた。

	・国語では授業の始めに5分間漢字を覚える活動を設け、月に2回程度の漢字テストを実施している。
幕張本郷	【国語】 ・基礎基本の定着が図れるよう、漢字テストや単語テストの回数を増やした。 ・思考力、表現力等を高めるために、単元末に<u>まとめのレポートを作成</u>させた。 ・文章の構成について理解を深められるよう、視点の違いを意識させた書き換えなど様々な条件を提示した「書く」活動を取り入れた。 ・「書く」活動が身近なものになるよう、行事などに際して韻文を書かせる機会を多く取り入れた。他生徒の作品に触れることで、新たな語彙の獲得にも繋がった。 【数学】 ・基礎基本の定着が図れるよう、定期的に小テスト等を取り入れた。 ・図形の単元において図を動的に捉えられるよう、グラフ作成ソフト「GeoGebra」を活用した。 ・証明問題において思考力、表現力を深めるために、<u>他の生徒と共有する場</u>を設定するようにした。その際、後で自己調整が図れるよう、事前に自分の考えを記述し、間違えていても消さずに残すよう指導した。
大椎	・実験結果や考察を<u>協働的に</u>行い1年生から継続して指導をしている。 ・1年生から継続的に単元の振り返りをさせ、簡単に<u>レポートにまとめ</u>させ提出をさせている。

○主体的・対話的で深い学び

- ・個別
- ・教え合い、話合い

○授業者の視点

- ・環境整備
- ・実態把握

○児童生徒

- ・自信
- ・書く力

3 質問調査結果概要

【資料5】児童生徒質問調査より〔千葉市・全国〕＜令和7年度＞

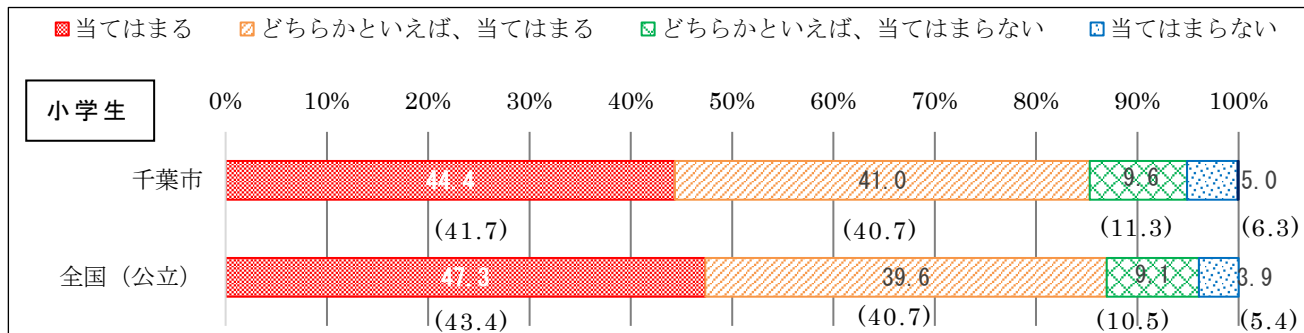
※質問文末の（ ）内の数字は、「児童生徒質問調査」の質問番号を示している。

※帯グラフの（ ）の数字は、令和6年度同質問の回答の割合を示している。

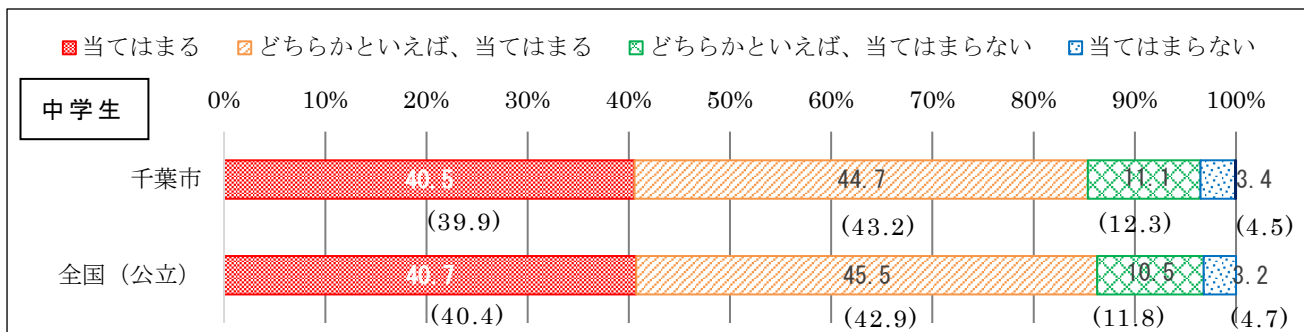
※小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

〔自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識〕

1 自分には、よいところがあると思いますか。（小5）（中5）

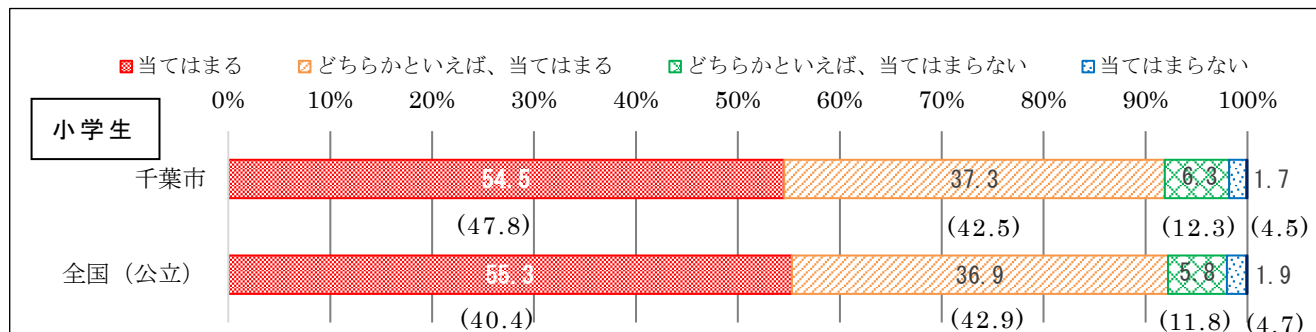


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→85.4%（全国より1.5ポイント低い）

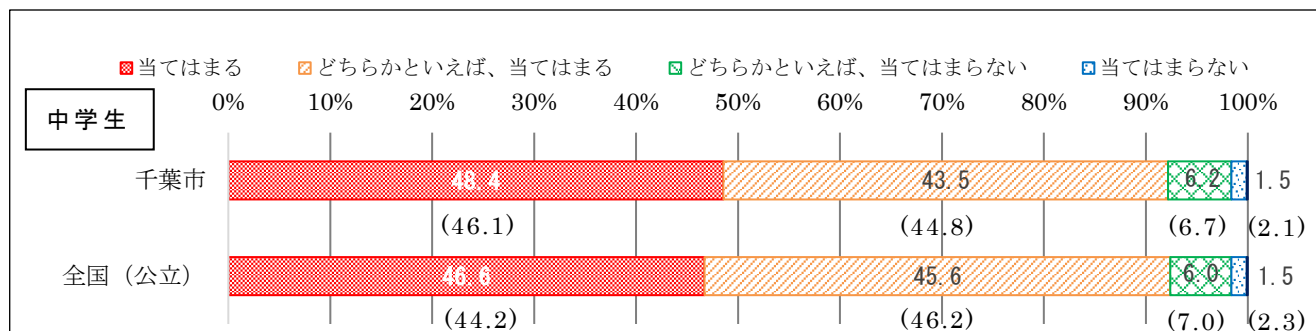


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→85.2%（全国より1.0ポイント低い）

2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（小6）（中6）

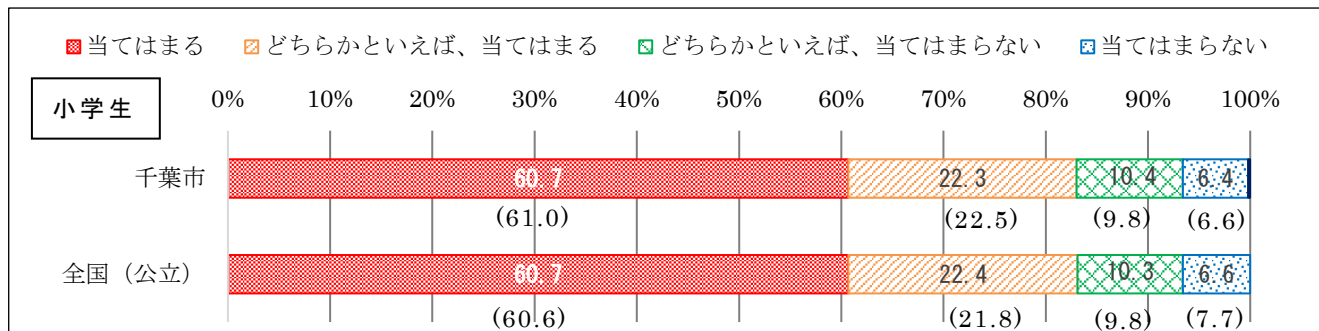


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→91.8%（全国より0.4ポイント低い）

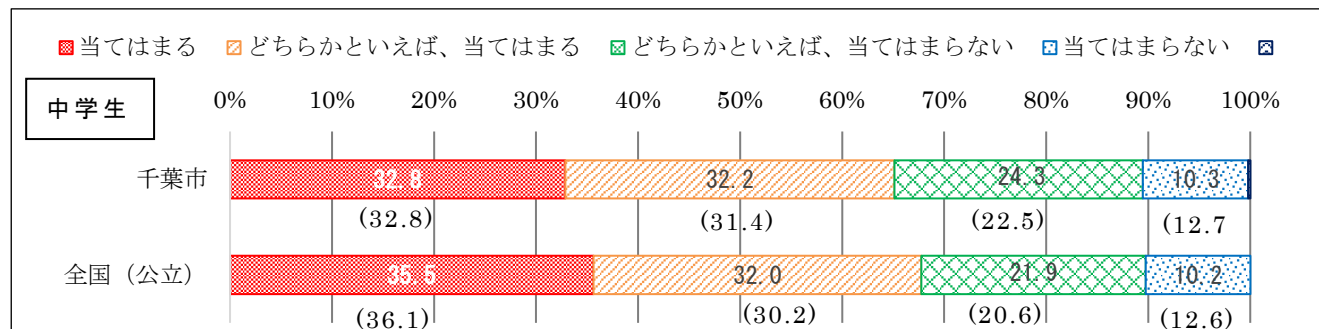


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→91.9%（全国より0.3ポイント低い）

3 将来の夢や目標を持っていますか。(小 7) (中 7)

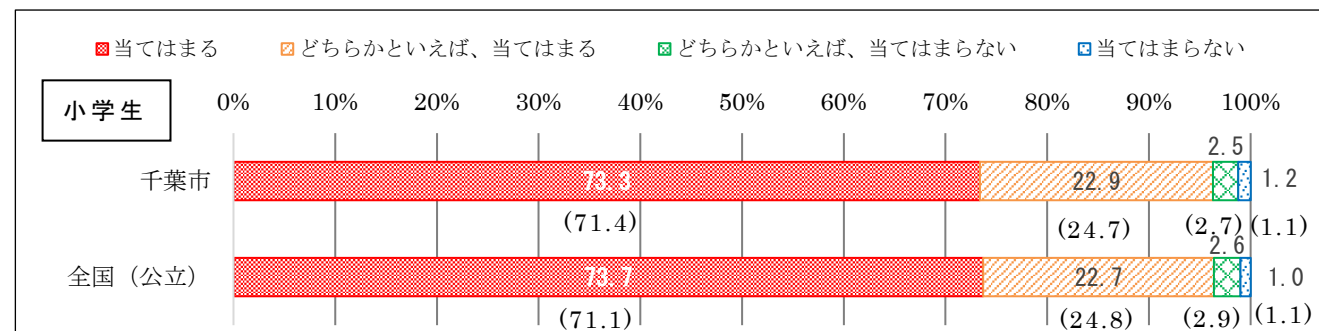


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→83.0% (全国より 0.1 ポイント低い)

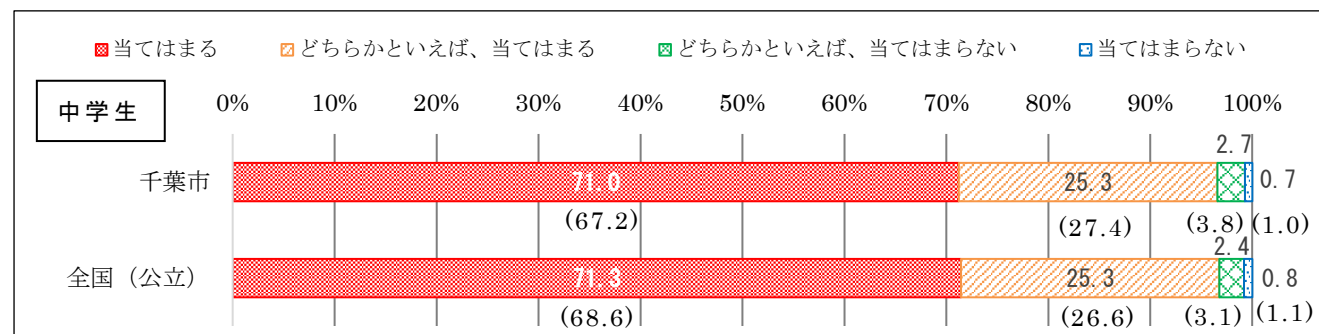


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→65.0% (全国より 2.5 ポイント低い)

4 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(小 11) (中 11)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→96.2% (全国より 0.2 ポイント低い)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→96.3% (全国より 0.3 ポイント低い)

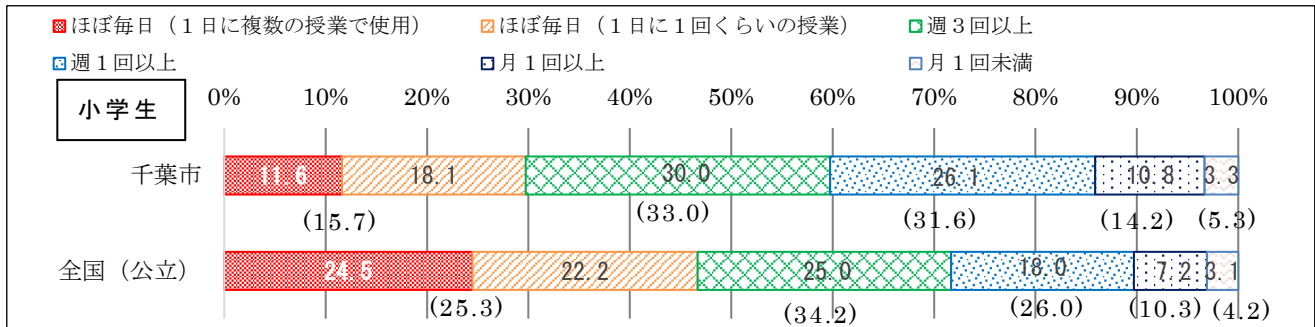
設問 1「自分には、よいところがあると思いますか」と設問 2「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答の割合は、全国平均を下回っているが、今年度も増加傾向が続いている。

項目 3 (設問 11)「将来の夢や目標を持つこと」については、小学生では肯定的な回答が 8 割程度である。また、設問 4「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については肯定的な回答が小学生・中学生ともに 9 割を超えている。

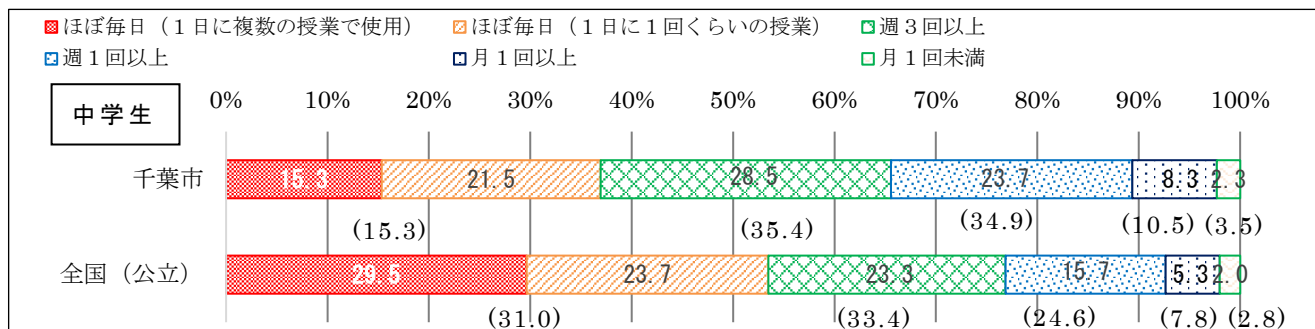
〔ICT機器の活用に関する意識〕

5 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(小28)(中28)

※令和6年度の選択肢は、「ほぼ毎日」は一つ

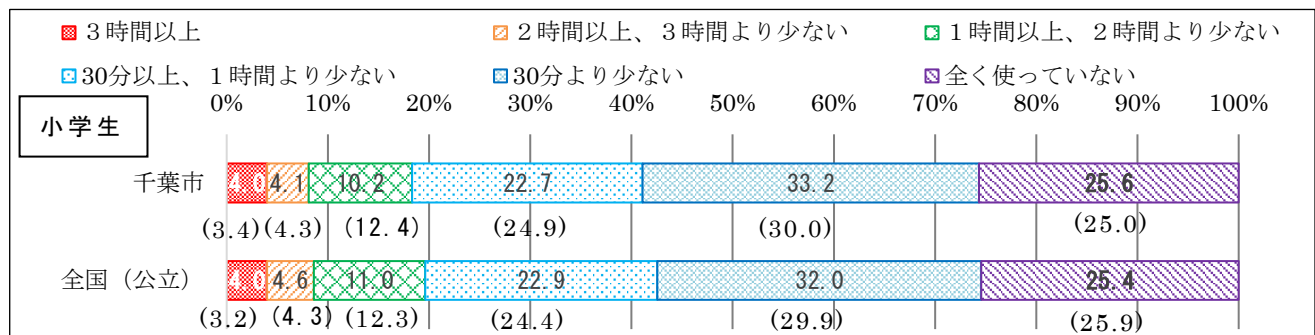


- ・ ほぼ毎日、週3回以上→59.7% (全国より12.0ポイント低い)

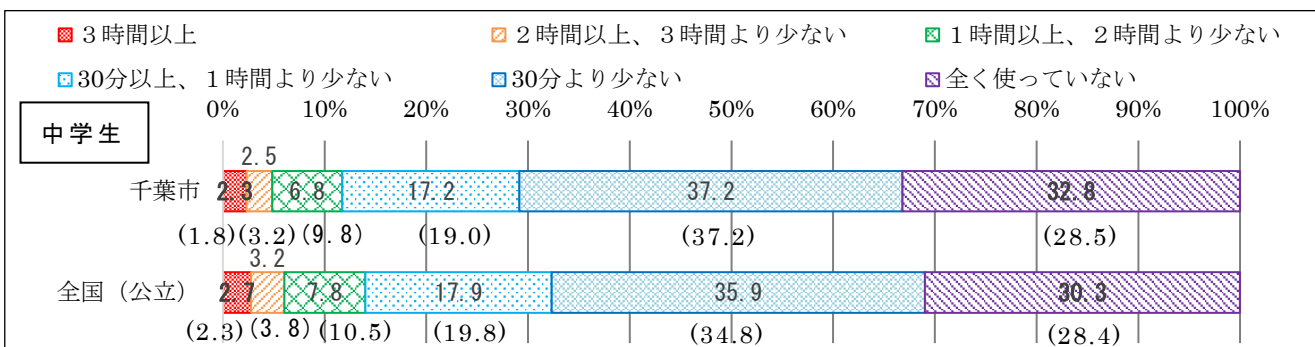


- ・ ほぼ毎日、週3回以上→65.3% (全国より11.2ポイント低い)

6 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)。(小18)(中18)



- ・ 3時間以上、2時間以上3時間より少ない⇒8.1% (全国より0.5ポイント低い)
- ・ 1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない⇒32.9% (全国より1.0ポイント低い)
- ・ 30分より少ない、全く使っていない⇒58.8 (全国より1.4ポイント高い)



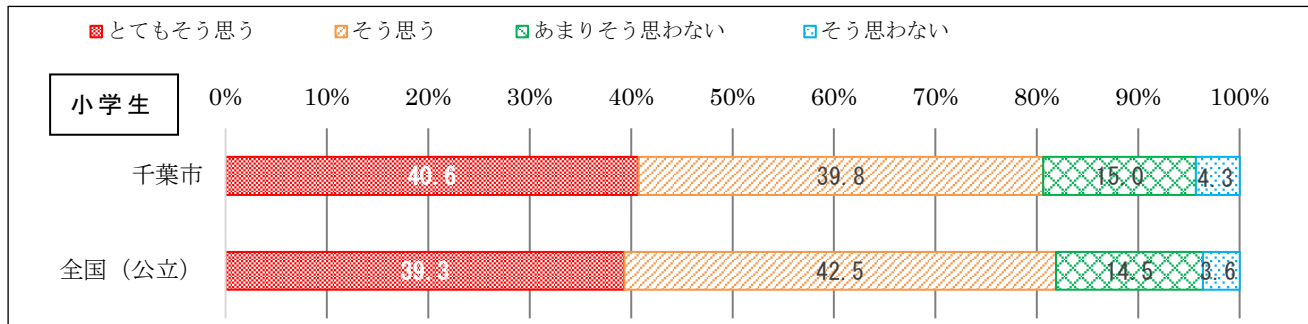
- ・ 3時間以上、2時間以上3時間より少ない⇒4.8% (全国より1.1ポイント低い)
- ・ 1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない⇒24.0% (全国より1.7ポイント低い)
- ・ 30分より少ない、全く使っていない⇒70.0% (全国より3.8ポイント高い)

〔ICT 機器を活用する自信に関する意識〕

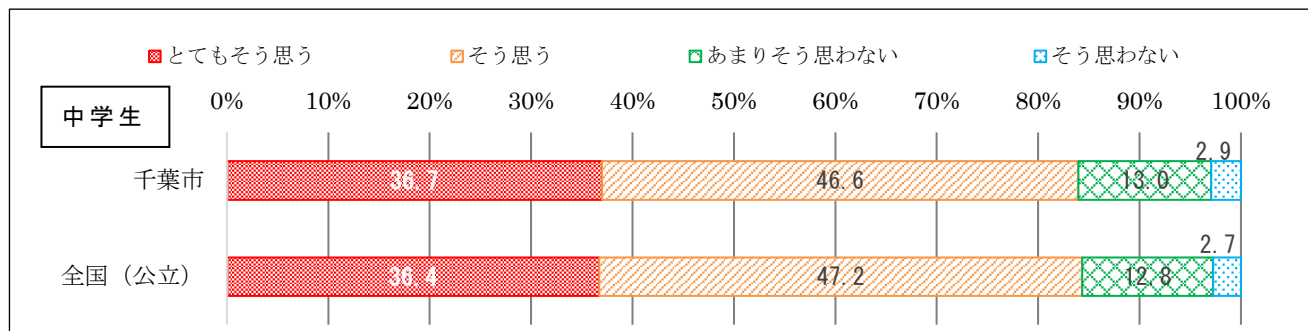
7 あなたは自分がP C・タブレットなどのI C T機器を使って以下のことができると思いますか。

(1) 文章を作成する（文字、コメントを書くなど）（小 29-1）（中 29-1）

※令和6年度に同質問は無いため、（ ）の記載なし



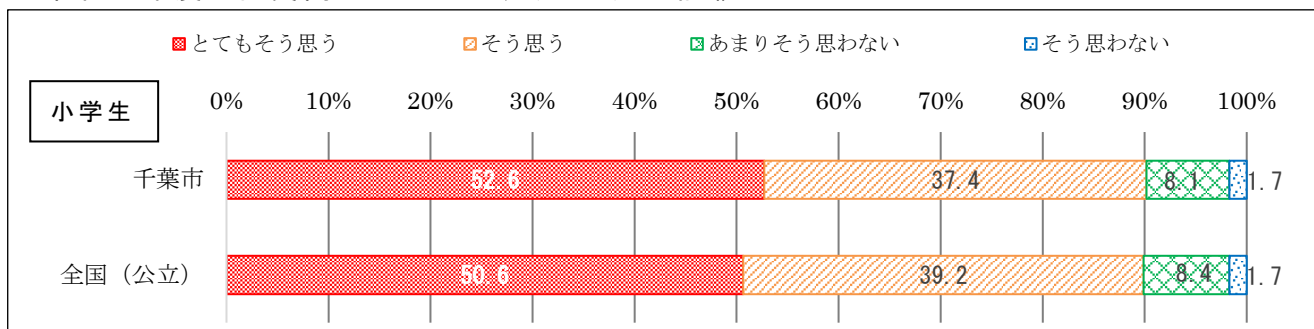
・とてもそう思う、そう思う→80.4%（全国より1.4ポイント低い）



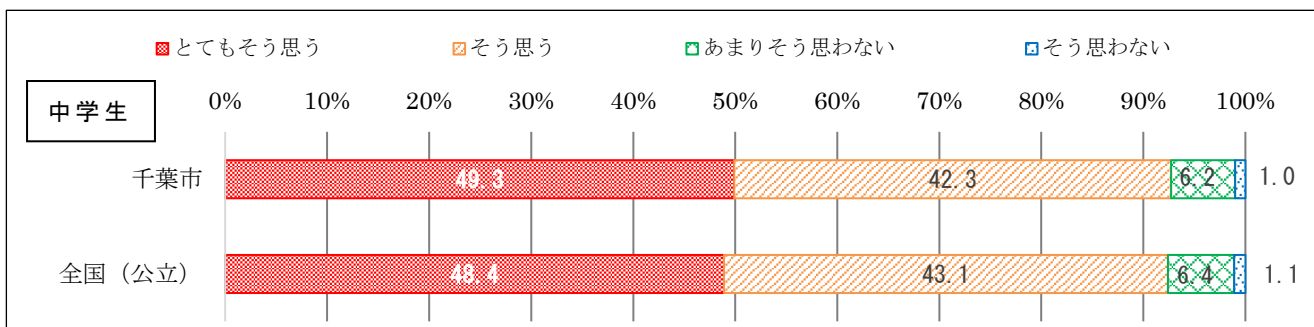
・とてもそう思う、そう思う→83.3%（全国より0.3ポイント低い）

(2) インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）（小 29-2）（中 29-2）

※令和6年度に同質問は無いため、（ ）の記載なし

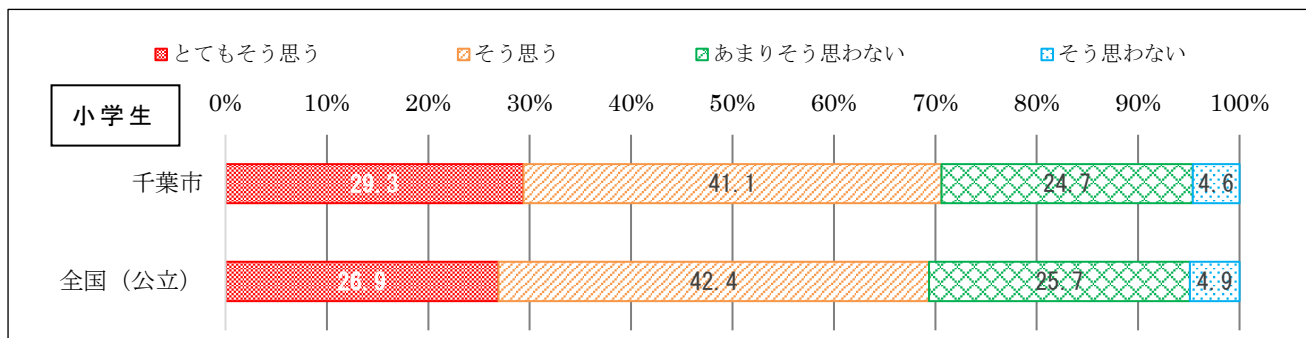


・とてもそう思う、そう思う→90.0%（全国より0.2ポイント高い）

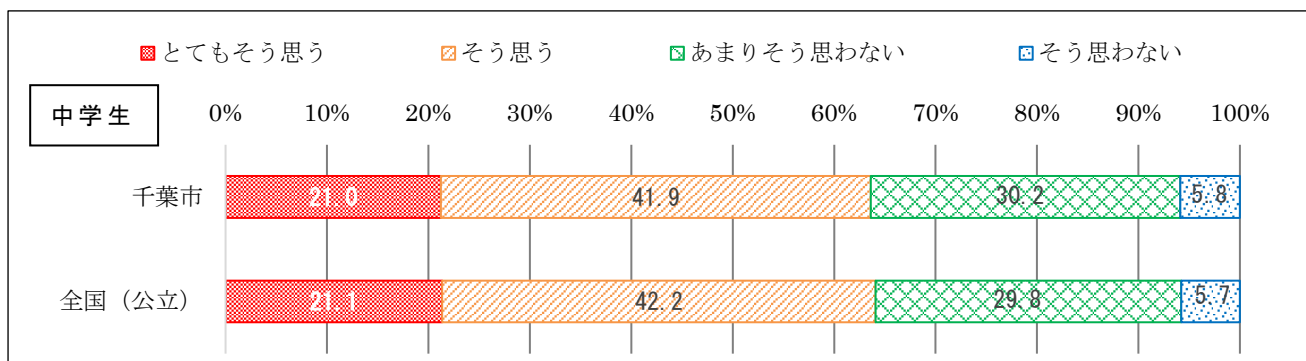


・とてもそう思う、そう思う→91.6%（全国より0.1ポイント高い）

(3) 情報を整理する(図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる)(小 29-3)(中 29-3)
 ※令和 6 年度に同質問は無いため、() の記載なし

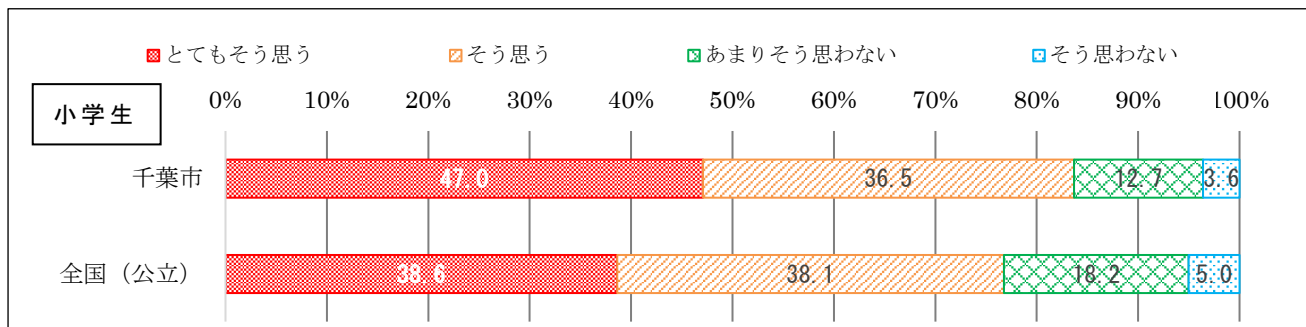


・とてもそう思う、そう思う→70.4% (全国より 1.1 ポイント高い)

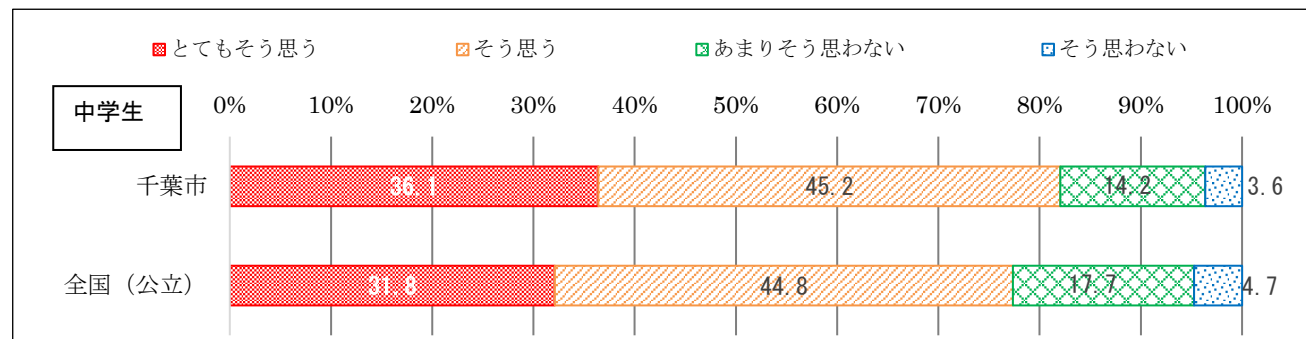


・とてもそう思う、そう思う→62.9% (全国より 0.4 ポイント低い)

(4) 学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成する(小 29-4)(中 29-4)
 ※令和 6 年度に同質問は無いため、() の記載なし



・とてもそう思う、そう思う→83.5% (全国より 6.8 ポイント高い)



・とてもそう思う、そう思う→81.3% (全国より 4.7 ポイント高い)

○項目 5（質問 27）5 年生まで（1、2 年生のとき）に受けた授業における PC・タブレットなどの ICT 機器の使用頻度（ほぼ毎日、週 3 回以上）については以下の通りである。

小学校 59.7%（全国-12.0 ポイント）、中学校 65.3%（全国-11.2 ポイント）

授業における PC・タブレットなどの ICT 機器の使用頻度は全国に比べて低く、課題である。令和 7 年度、千葉市学校教育の課題として「探究ラボ（新 PC 教室）の整備と活用」「ICT 活用研修と連携の充実」が図られているところであり、今後も一層推進していきたい。

今年度、ICT を活用する自信に関する新たな質問が追加された。

○項目 7（3）（質問 29-3）

情報を整理する（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめることができる。

小学生 70.4%（全国+1.1 ポイント）中学生 62.9%（全国-0.4 ポイント）

○項目 7（4）（質問 29-4）

学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。

小学生 83.5%（全国+6.8 ポイント）中学生 81.3%（全国+4.7 ポイント）

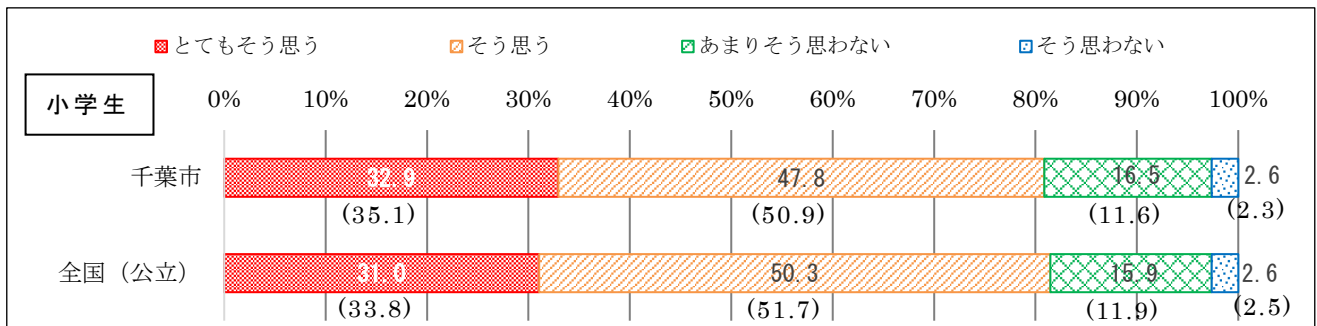
ICT を活用することについて自信のある児童生徒の割合は比較的高く、特にプレゼンテーション作成は全国平均を大きく上回っている。後述する課題として挙げた自分の考えが伝わるような工夫、自分の学びの調整を ICT 活用と結び付けることで改善が期待できる。

〔ICT 機器の活用の効力感に関する意識〕

8 5 年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

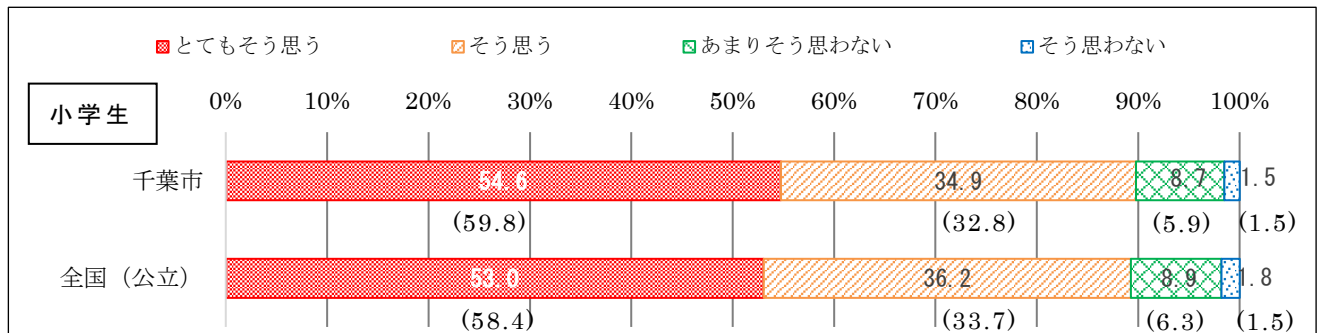
※中学校は 7 項目のうち無作為に選ばれた 2 項目に回答しているため、データなし

(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。（小 30-1）



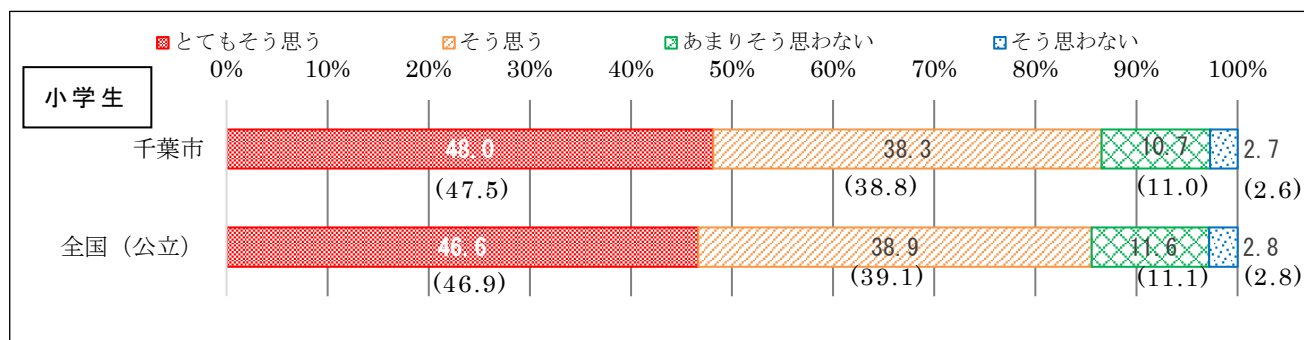
・とてもそう思う、そう思う→80.7%（全国より 0.6 ポイント低い）

(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。（小 30-2）



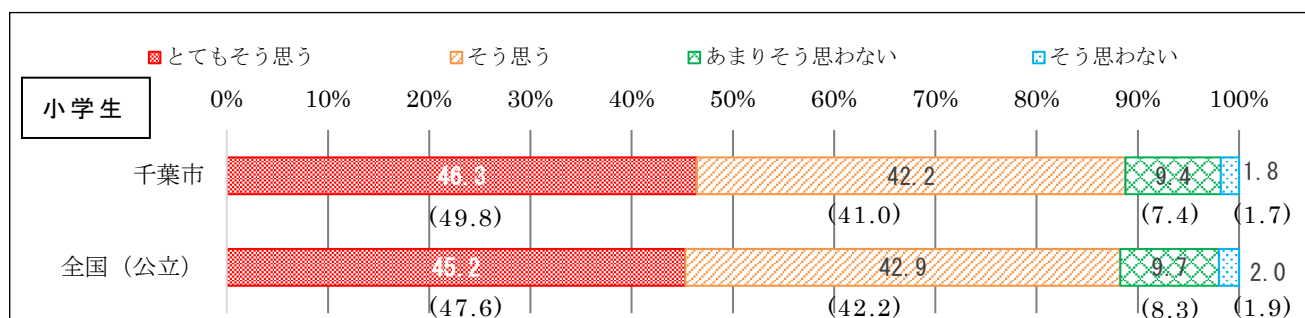
・とてもそう思う、そう思う→89.5%（全国より 0.3 ポイント高い）

(3) 楽しみながら学習を進めることができる。(小 30-3)



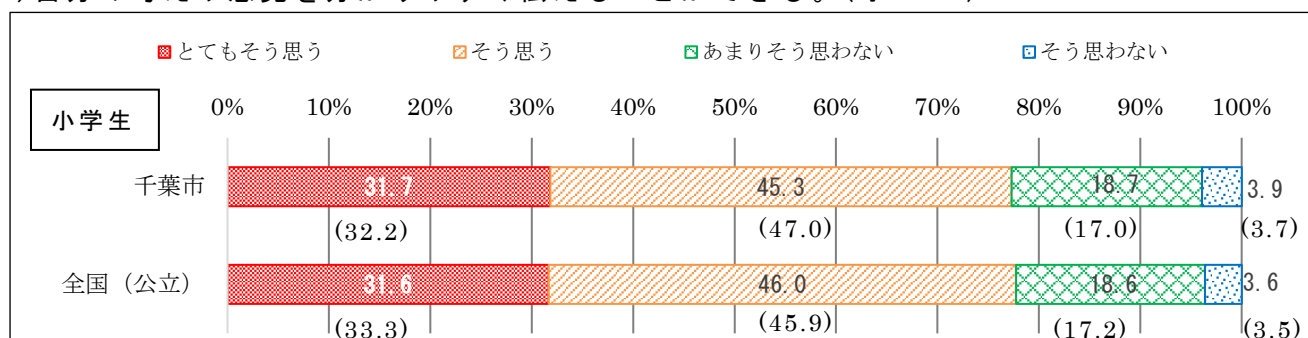
・ とてもそう思う、そう思う→86.3% (全国より 0.8 ポイント高い)

(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。(小 30-4)



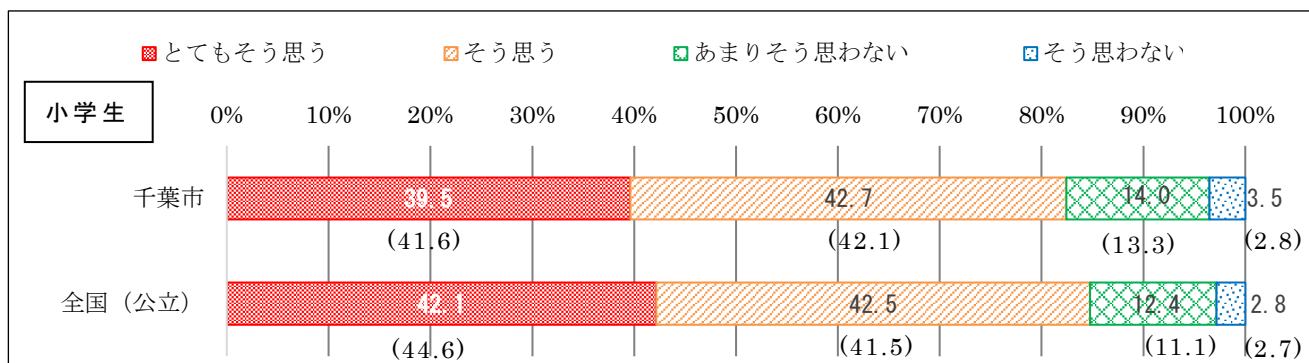
・ とてもそう思う、そう思う→88.5% (全国より 0.4 ポイント高い)

(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。(小 30-5)



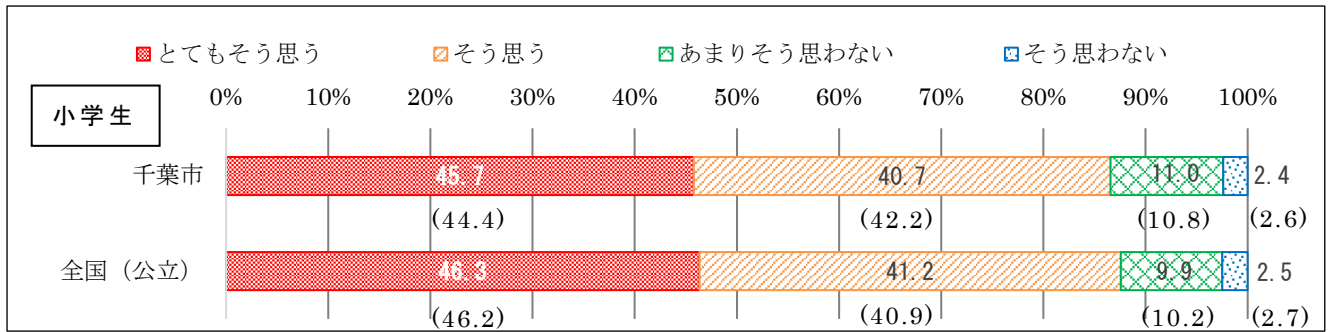
・ とてもそう思う、そう思う→77.0% (全国より 0.6 ポイント低い)

(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。(小 30-6)



・ とてもそう思う、そう思う→82.2% (全国より 2.4 ポイント低い)

(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる。(小 30-7)



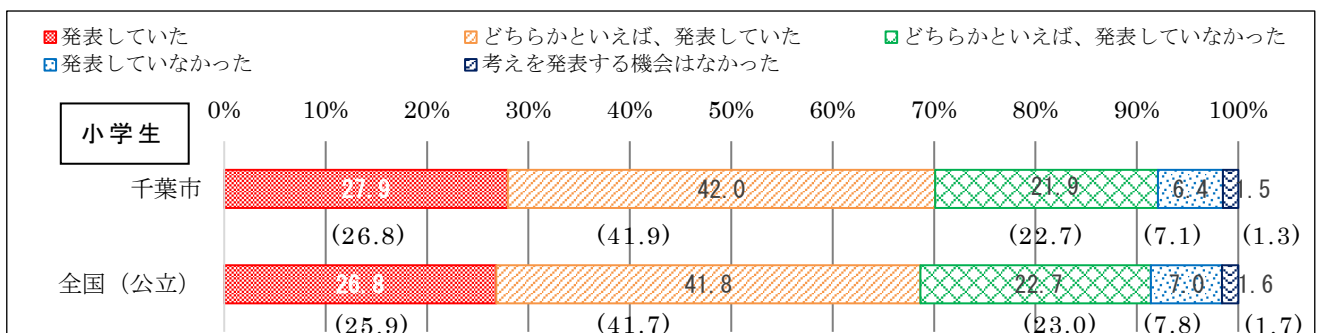
・ とてもそう思う、そう思う→86.4%（全国より 1.1 ポイント低い）

○ 項目 7 (7) (質問 30-7)

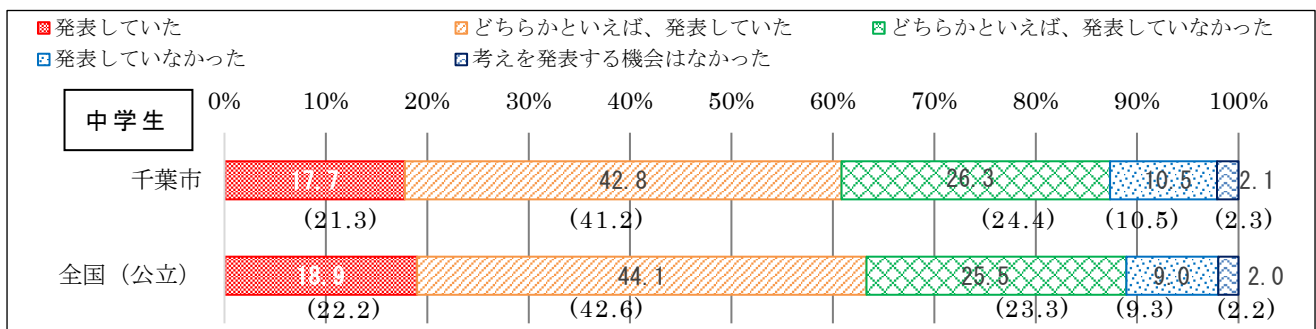
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる 小学生 82.2%（全国-2.4 ポイント）
「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のための道具としての ICT 機器の活用について、今後も取組を継続していく必要がある。

〔主体的・対話的で深い学び（個別最適な学びと協働的な学び）に関する意識〕

9 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。(小 31) (中 31)

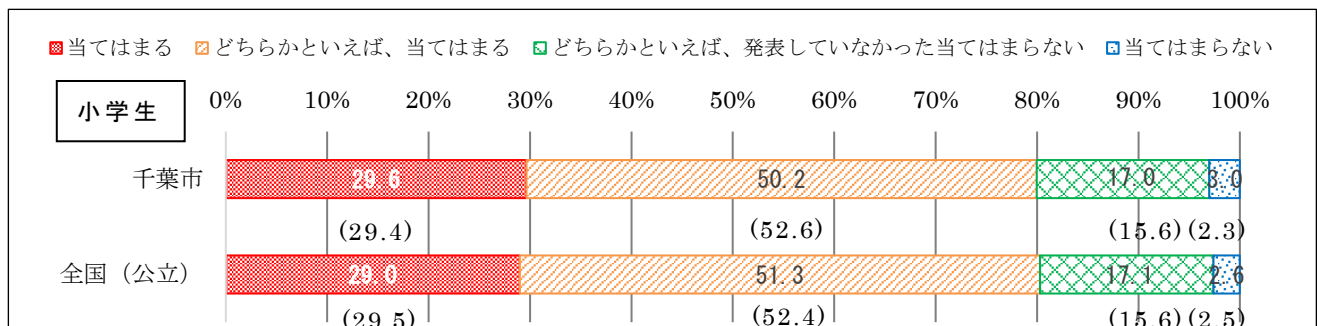


・ 発表していた、どちらかといえば発表していた→69.9%（全国より 1.3 ポイント高い）

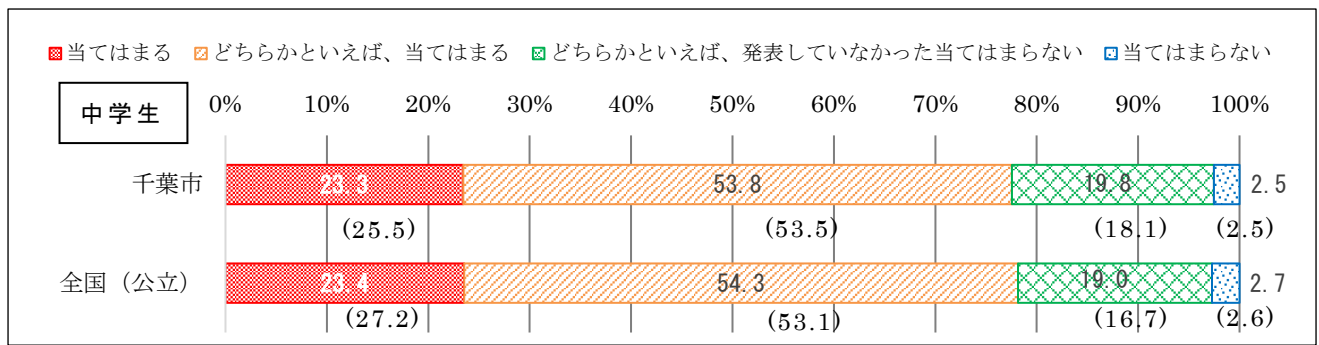


・ 発表していた、どちらかといえば発表していた→60.5%（全国より 2.5 ポイント低い）

10 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。(小 32) (中 32)

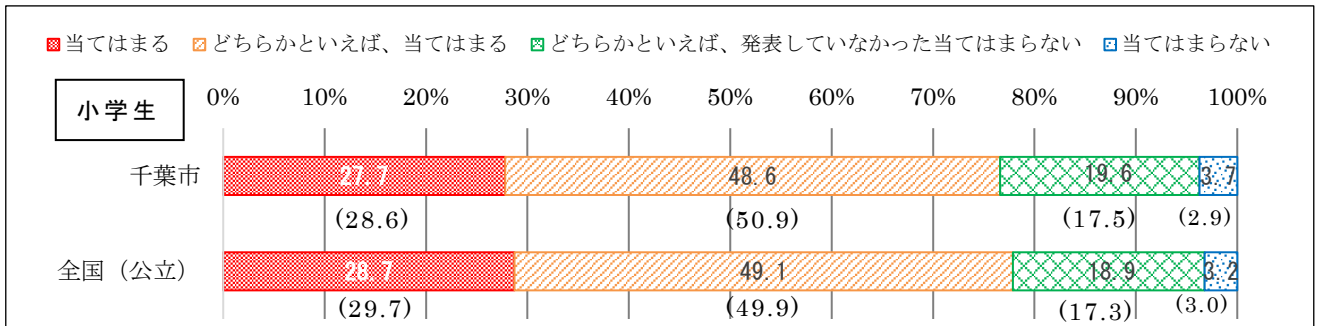


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→79.8%（全国より 0.5 ポイント低い）

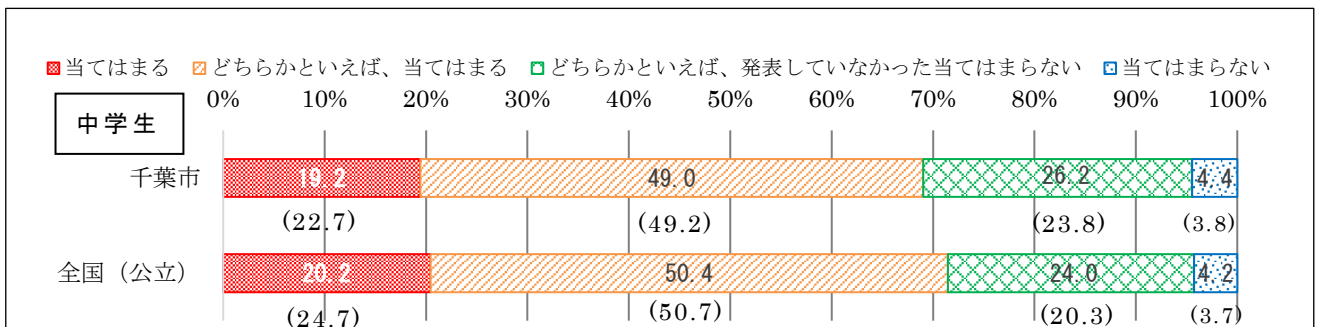


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→77.1%（全国より0.6ポイント低い）

11 5年生（1、2年生のとき）までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。（小33）（中33）

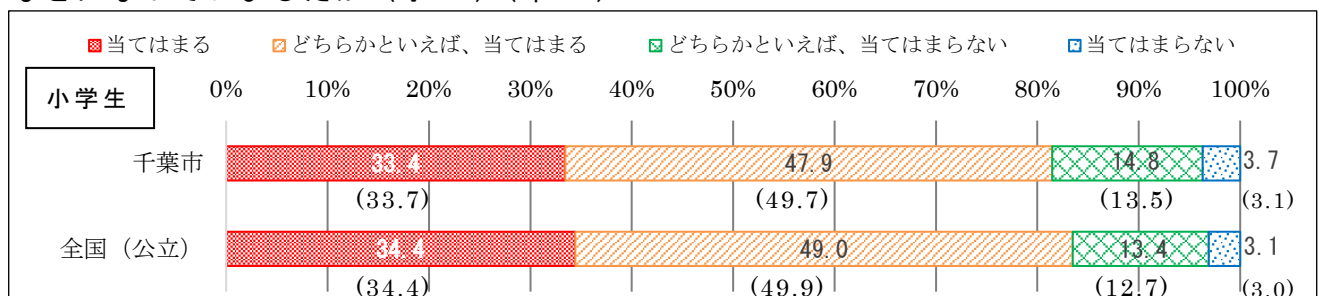


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.3%（全国より1.5ポイント低い）

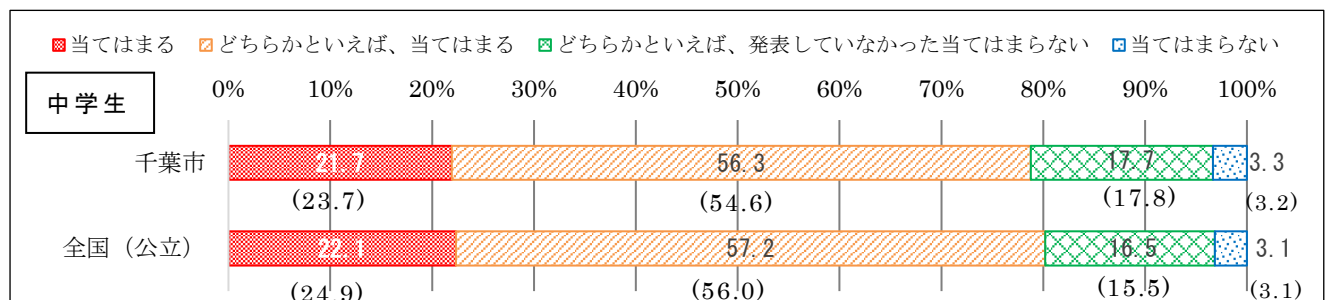


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→68.2%（全国より2.4ポイント低い）

12 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか（小34）（中34）

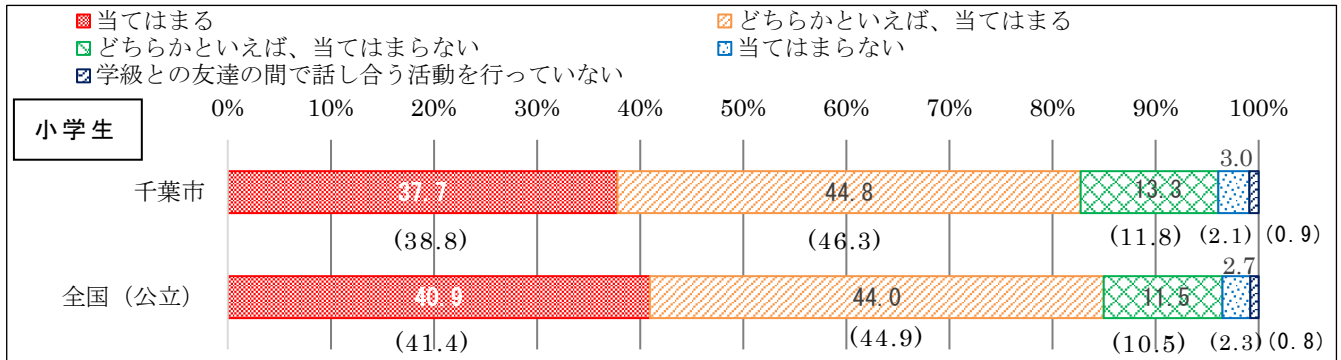


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→81.3%（全国より2.1ポイント低い）

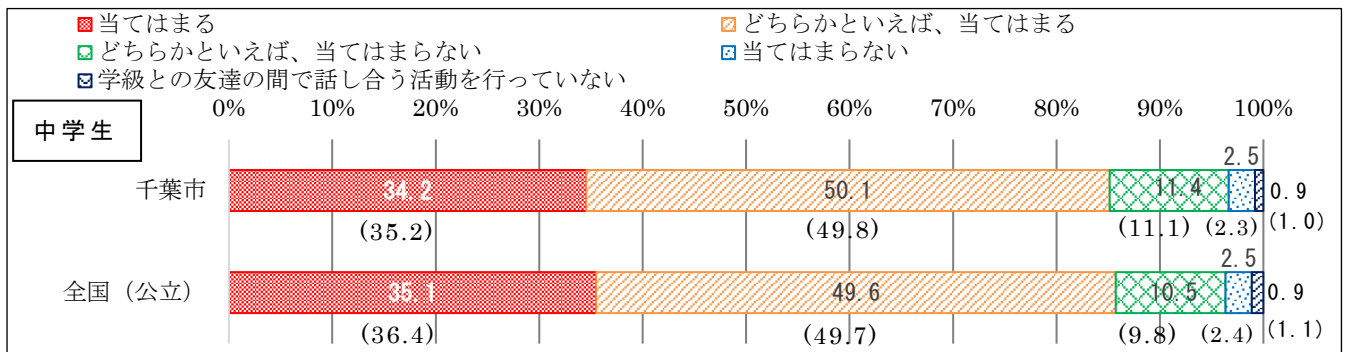


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→78.0%（全国より1.3ポイント低い）

13 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。（小 35）（中 35）

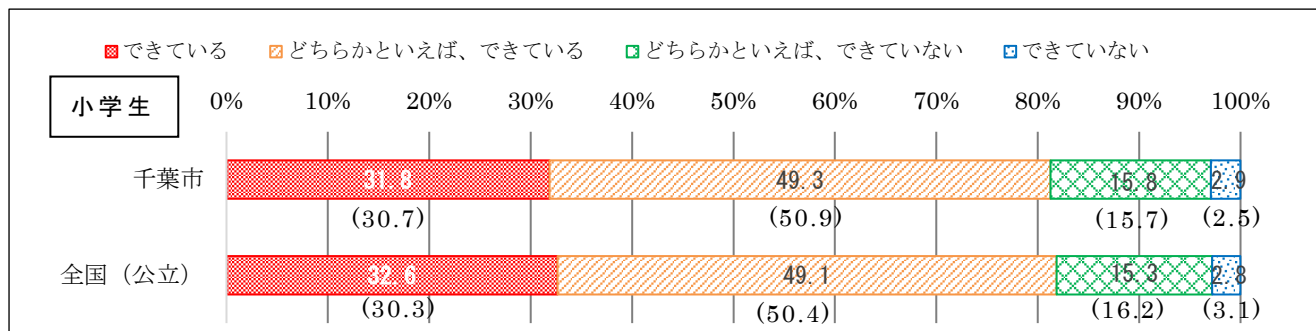


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→82.5%（全国より 2.4 ポイント低い）

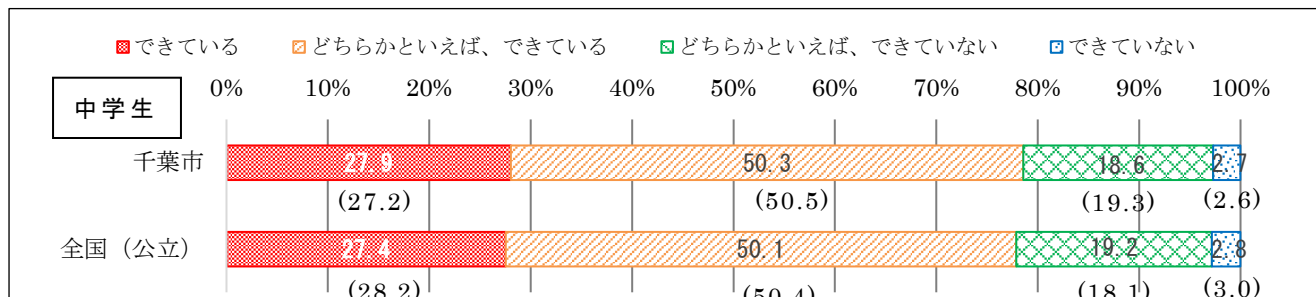


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.3%（全国より 0.4 ポイント低い）

14 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。（小 16）（中 16）

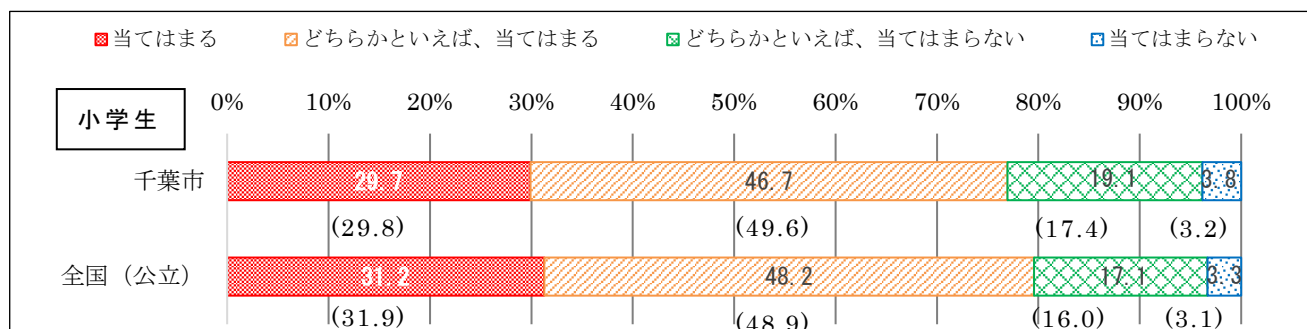


・ できている、どちらかといえばできている→81.1%（全国より 0.6 ポイント低い）

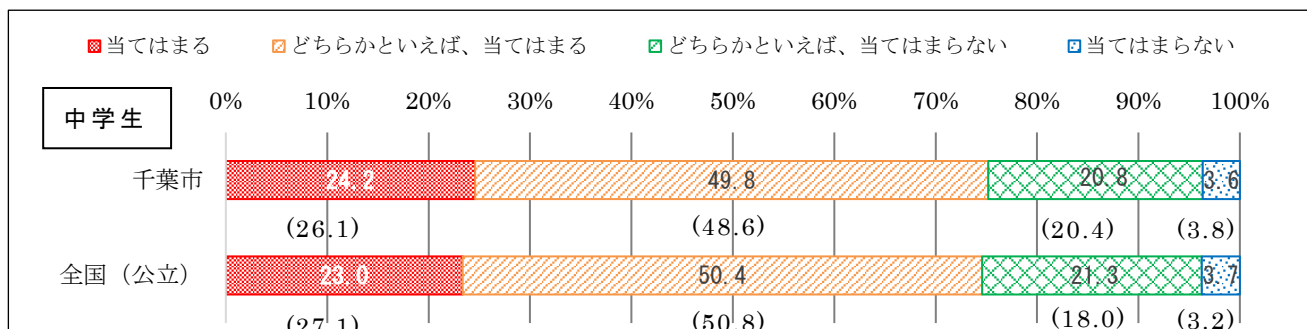


・ できている、どちらかといえばできている→78.2%（全国より 0.7 ポイント高い）

15 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 (小 36) (中 36)

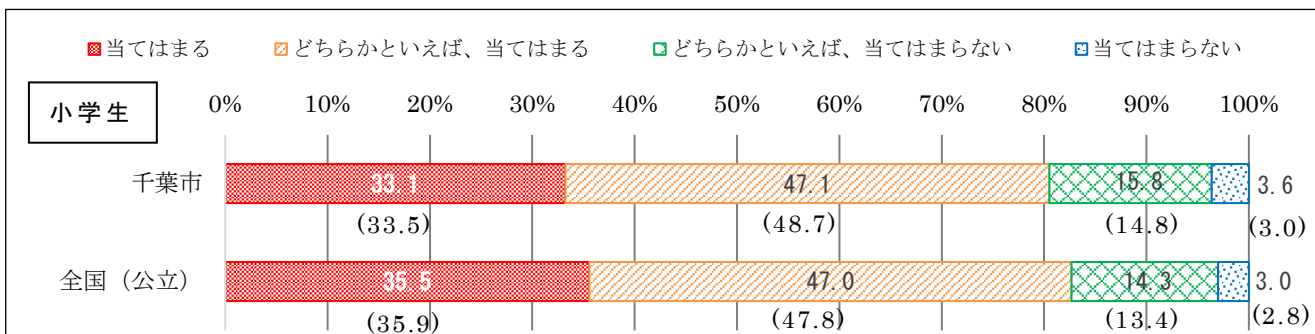


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.4% (全国より 3.0 ポイント低い)

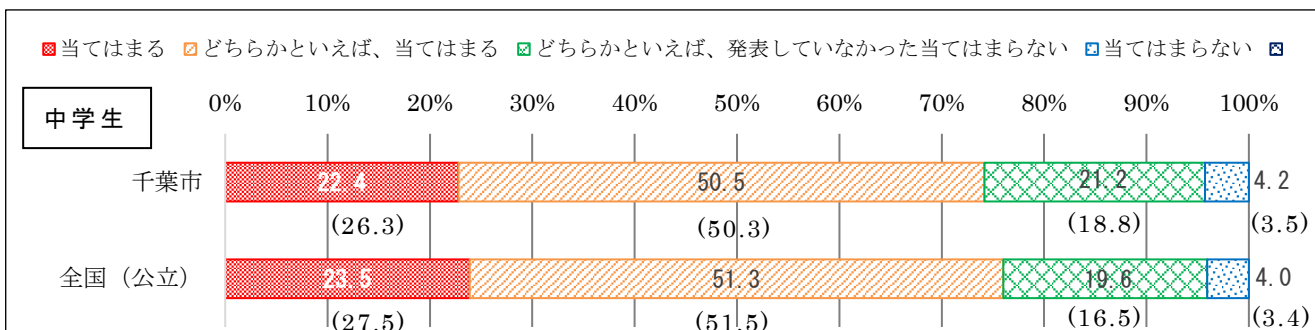


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→74.0% (全国より 0.6 ポイント高い)

16 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるとおもいますか (小 37) (中 37)

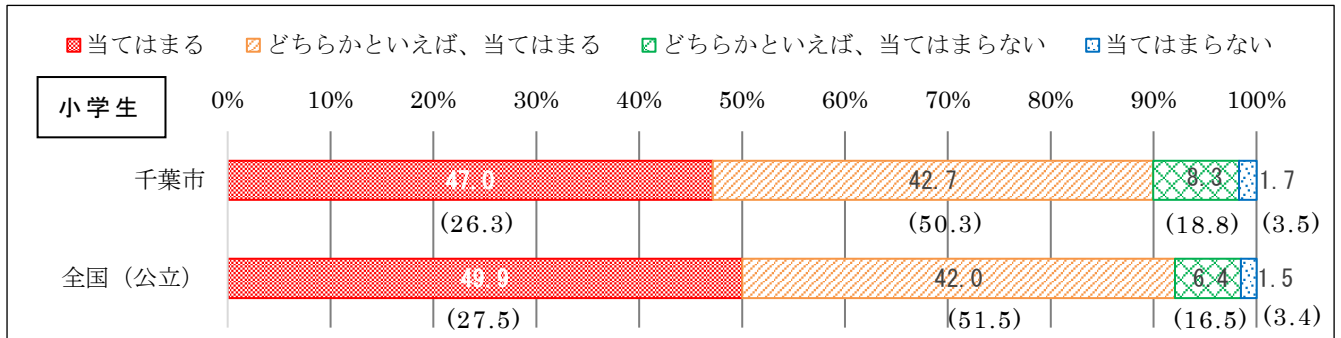


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→80.2% (全国より 2.3 ポイント低い)

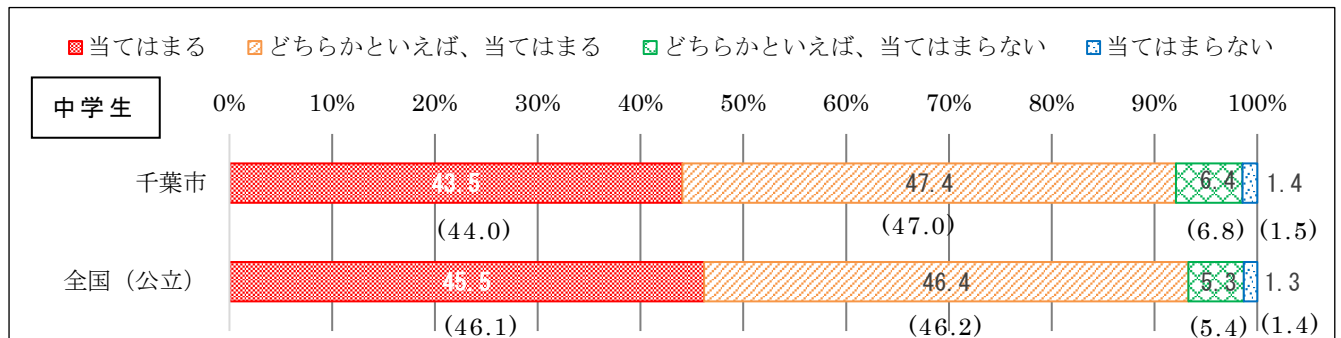


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→72.9% (全国より 1.9 ポイント低い)

17 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか（小 39）（中 39）



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→89.7%（全国より 2.2 ポイント低い）



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.9%（全国より 1.0 ポイント低い）

○項目 9（質問 31）

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

小学生 69.9%（全国+1.3 ポイント）中学生 60.5%（全国-2.5 ポイント）

○項目 14（質問 16）

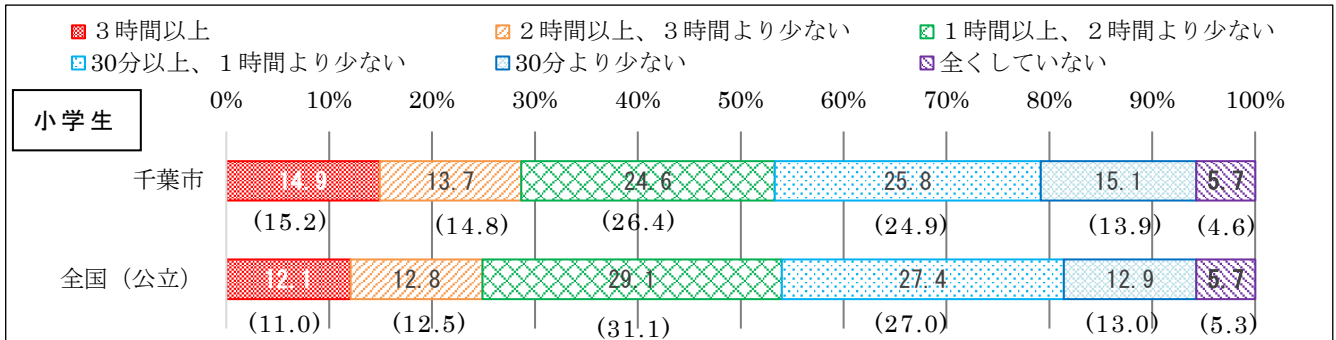
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

小学生 81.1%（全国-0.6 ポイント）中学生 78.2%（全国+0.7 ポイント）

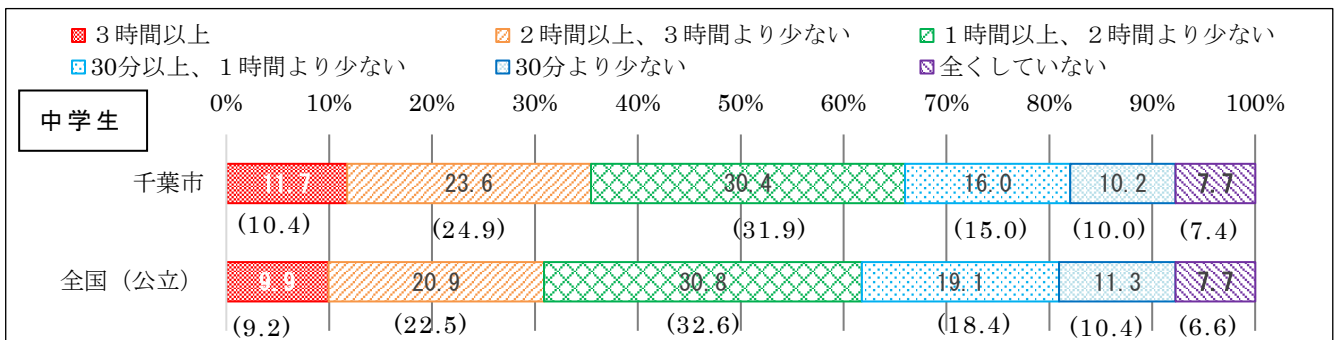
小学校においては、自分の考えを発表する工夫、中学校においては自分の学びを調整する工夫において、それぞれ全国平均を上回っている。千葉市学校教育の課題に挙げられている「情報を分析し、根拠を明確にしてわかりやすく伝え合う活動の工夫」や「自らの学びを振り返る場、認め合う場の工夫」を継続して行うことが大切である。

〔家庭での学習に関する意識〕

18 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（小 17）（中 17）

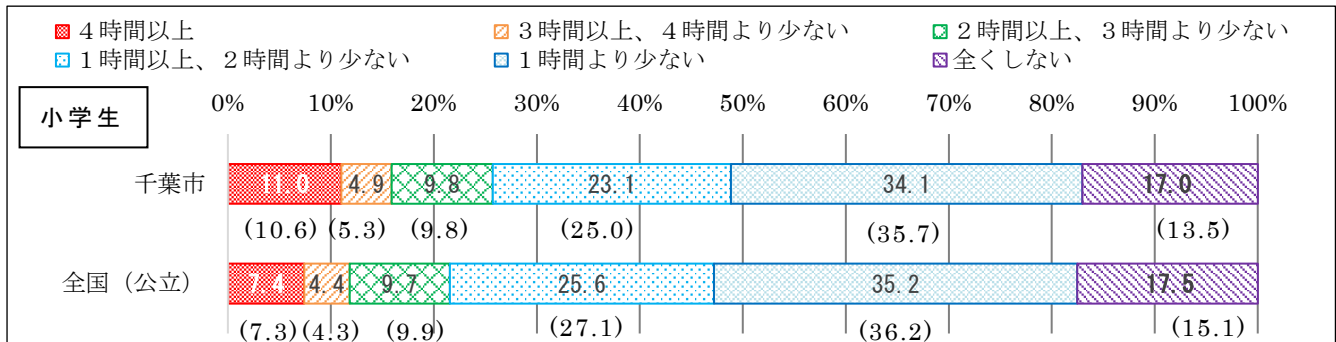


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→28.6%（全国より3.7ポイント高い）
- ・ 30分より少ない、全くしない→20.8%（全国より2.2ポイント高い）

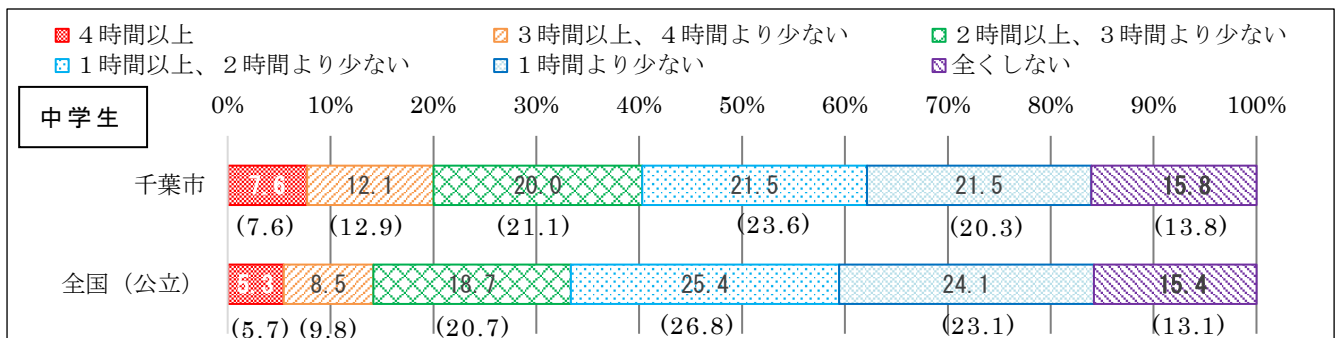


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→35.3%（全国より4.5ポイント高い）
- ・ 30分より少ない、全くしない→17.9%（全国より1.1ポイント低い）

19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（小 19）（中 19）



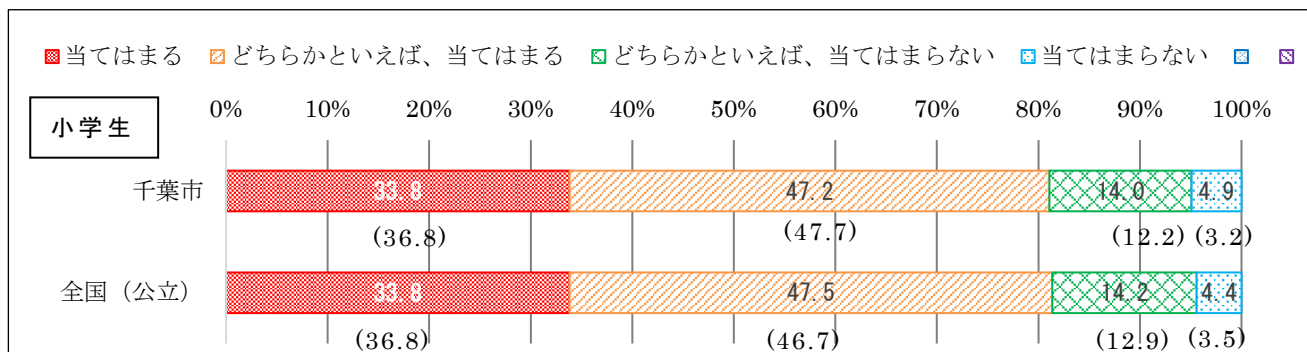
- ・ 1日2時間以上勉強をしている→25.7%（全国より4.2ポイント高い）
- ・ 全くしない→17.0%（全国より0.5ポイント低い）



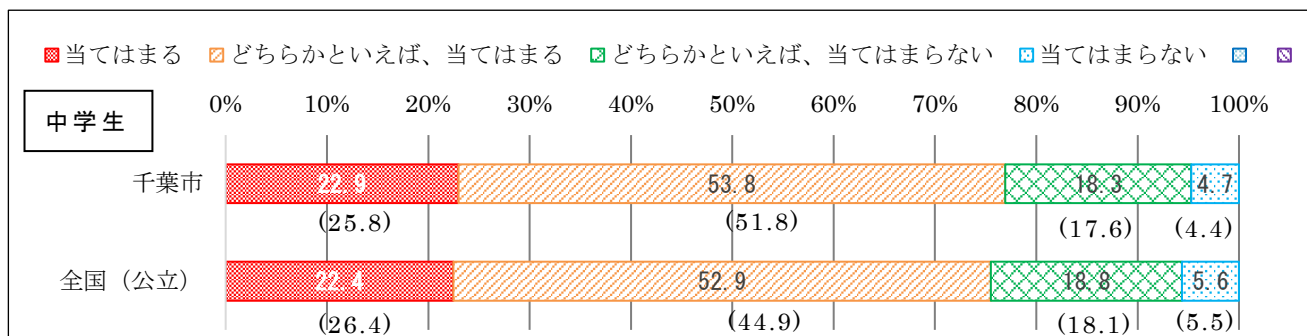
- ・ 1日2時間以上勉強をしている→39.7%（全国より7.2ポイント高い）
- ・ 全くしない→15.8%（全国より0.4ポイント高い）

〔地域・社会との関わりに関する意識〕

20 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(小 27) (中 27)



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→81.0%（全国より0.3ポイント低い）



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.7%（全国より1.4ポイント高い）

4 今後の取組

(1) 児童生徒の確かな学力の育成を図るため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。そのために以下のような取組を行う。

○全国学力・学習状況調査及び千葉県学力状況調査の結果を分析し、各校の児童生徒の良い点や伸ばしたい点を整理して実態を把握し、その改善に向けて**学力向上アクションプランの見直し**を行う。その際、

- ・学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動
- ・わかった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげる活動
- ・学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりする活動

を大切にする。また、本市児童生徒の肯定回答割合が高いＩＣＴを活用したプレゼンテーション作成の自信へと結びつけ、より深い学びと１人１台端末の活用機会の一層の充実を図る。

○全国学力・学習状況調査の調査結果の分析と、それを踏まえた学習指導の改善・充実に向けたポイントを示した**リーフレット「結果概要と授業改善のすすめ」**や、課題となった調査問題ごとに誤答例や授業改善のポイントを収録した**解説動画「学力向上への取組」**を各学校に配付する。それらをもとに、日々の授業の改善を図り、課題となっていた資質・能力の育成を目指す。

○**「探究ラボ（新ＰＣ教室）の整備と活用」「ＩＣＴ活用研修との連携の充実」**について一層推進していく。また、家庭学習での取組を含め、ＩＣＴ機器を活用した実践例を収集し、**「Best Mix GIGA事例集」**の格納数を増やしていく。

○指導主事の**学校訪問**において、以下の視点を重点とした指導・助言をしていく。

【教科指導について】

- ・文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えさせること（国語）
- ・伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させること（国語）
- ・基準となる数を見だし数量の関係を捉えさせること（算数）
- ・数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めさせていくこと（数学）
- ・問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実（理科）

【学び方について】

- ・自分に合った学び方を意識させること（自己調整的な学び、自由進度学習）
- ・ドリルパークなど下位層に取り組みやすい家庭学習を促進すること
- ・本市児童が感じているＩＣＴの効力感を大事にして活用機会を増やすこと

【学校の取組について】

- ・顕著な向上が見られた学校の取組を全市に展開させること
- ①基礎・基本 ②話し合い活動 ③個への支援 ④書く活動
- ※ 継続的、定期的、組織的に（学校・学年）取り組んでいる

(2) **「教育だよりちば」**や**教育委員会のホームページ等**を通して、全国学力・学習状況調査の結果概要と分析を踏まえ、授業における取組の様子や、ＩＣＴ機器を活用した学習の効果、家庭学習の大切さ等について、広く保護者に発信する。

(3) 教育委員会関係各課と連携し、自己肯定感を高める指導方法や将来の生き方について考え、夢や目標を持つことができる**キャリア教育**を推進するよう学校に助言する。

○千葉県キャリア教育の基本方針**「未来を拓くキャリア教育」**を参考に、**キャリアパスポートの活用**を促進する。

○企業や各種団体、地域、家庭と連携を図りながら、**職業体験学習**（職場体験や出前授業等）を実施する。